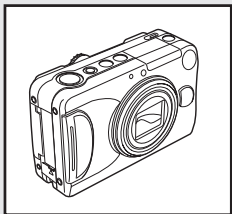
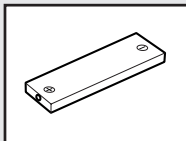
Finecam S5R

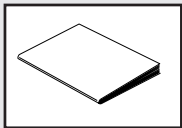
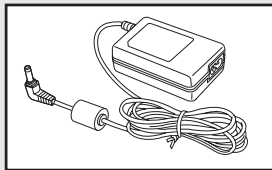
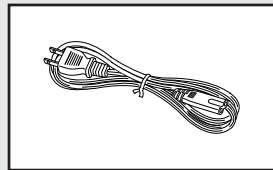
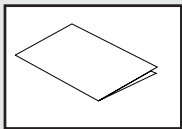
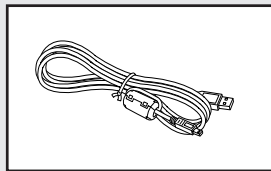
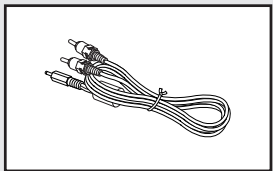
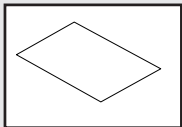
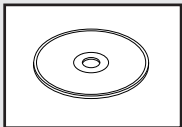
市販のSDメモリーカードまたはマルチメディアカード*をお使いください。
本書では、これらのカードのことを「メモリーカード」と称しております。

＊ MultiMediaCard™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。

お買い上げありがとうございました。

この Finecam S5R は光学 3 倍ズームレンズを搭載した高性能、高画質のデジタルカメラです。
お取り扱いの際はこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい使いかたで、末永くご愛用ください。

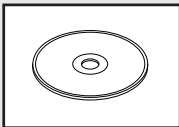
付属品の確認　*まず、はじめに付属品の確認をしてください。*

デジタルカメラ
Finecam S5R

バッテリーパック
（カメラに入れて充電して使います）
14ページ

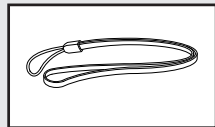
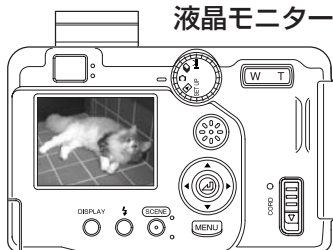
取扱説明書（本書）

ACアダプター
（カメラにつないで充電します）
14ページ

ACアダプターケーブル
14ページ

クイックスタートガイド

USBケーブル
（パソコンとカメラをつなぎます）
88ページ

ビデオケーブル
（カメラとテレビをつなぎます）
84ページ

保証書

CD-ROM（CD-42）
（ドライバソフト）

CD-ROM
（Kodak Easy Share）

ハンドストラップ
5ページ

このカメラでできること *カメラ自身／カメラ周辺*

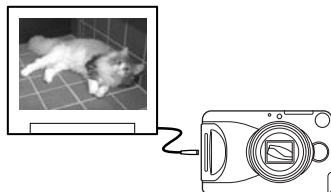
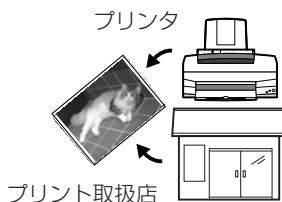
撮る

液晶モニターで見る

パソコンにつなぐ

付属の USB ケーブルでカメラとパソコンをつないでください。

- Ｅメールに画像をつけて送る
- ハードディスクや CD-R に保存する
- 壁紙にする

- レタッチソフトで加工する

OS によっては USB ドライバのインストールが必要です。この場合は USB ドライバをインストールしてからカメラとパソコンをつないでください。手順を間違えると USB ドライバが正しくインストールできません。詳しくは P85 をご覧ください。

テレビで見る

デジタルプリントする

＊ 従来の写真と同様にデジタルプリントはプリント取扱店でできます。サービス内容についての詳細は、お店にお問い合わせください。

目次

はじめに
付属品の確認...,2
このカメラでできること...............................3
取扱上のご注意...6
各部の名称...10
液晶モニターの表示内容（撮影時）...........11
LEDの表示内容..12

撮影前の準備と操作確認

撮影前の準備

1. バッテリーパックの入れかたと
充電のしかた.......................................14
2. メモリーカードの入れかたと
取り出しかた.......................................15
3.日付･時刻の設定...................................16
4. 日付の写し込み（静止画）......................17
5.カメラの構えかた...................................17

各部の役目

1. “POWER”（パワー）ボタンについて ... 19
2. シャッターボタンについて 19
3. モードダイヤルについて 20
4. ズームボタンについて 20
5. “ ”（ストロボ）ボタンについて.......... 20
6. “DISPLAY”(ディスプレイ)ボタン
について 21
7. “SCENE”（シーン）ボタンについて ...22
8. “MENU”（メニュー）ボタン
について 22
9. “ ”（選択レバー）について 23
10. 光学ファインダーについて 23

撮影

静止画の基本的な撮影

1. “ ” 1コマ撮影 25
2. “ ” 連続撮影.. 26

静止画の応用撮影

1. フォーカスロック撮影 28
2. ストロボ撮影 29
3. シーンボタンを使った撮影 31
〈1. 標準モード〉
〈2. スポーツモード〉
〈3. 夜景モード〉
〈4. 夜景ポートレートモード〉
〈5. マクロモード〉
〈6. 遠景モード〉
4. メニューボタンを使った撮影 34
〈1. セルフタイマー撮影〉 34
〈2. 画素数と 画質の選択〉 35
〈3. 露出補正〉 36
〈4. “WB”ホワイトバランスの設定〉 37
〈5. その他“ M”詳細設定〉 38
①カラーモード
②彩度
③シャープネス
④ WB プリセット
⑤ AE モード
⑥フォーカス
⑦長時間露光
⑧ ISO
⑨測光モード
⑩電子ズーム
“ M”詳細設定の設定方法 40
“WB プリセット”の設定方法 41
“フォーカス”の［MF］設定方法 42

動画の撮影

1. 動画の基本的な撮影 44
2. シーンボタンを使った撮影 45
〈1. 標準モード〉
〈2. マクロモード〉
〈3. 遠景モード〉
3. メニューボタンを使った撮影 46
〈1. セルフタイマー撮影〉 46
〈2. 画素数とフレーム／秒の選択〉......... 47
〈3. 露出補正〉 48
〈4. “WB”ホワイトバランスの設定〉 49
〈5. その他“ M”詳細設定〉 50
①音声モード
②カラーモード
③ WB プリセット
④フォーカス
⑤電子ズーム
“ M”詳細設定の設定方法 51
画像が一杯になったら 52

再生と消去

静止画の再生と消去

1. 静止画再生 54
2. 再生画像のクローズアップ 55
3. 撮影時の情報表示 56
4. マルチ表示 57
5. ［アフレコ］画像に声のメッセージを入れる 58
6. ［プロテクト］画像の保護 60
7. 画像の消去 61
8. ［リサイズ］ 62
9. ［回転］画像を回転させる 65
10. ［スライドショー］画像を連続表示させる 66
11. ［プリント設定］DPOFでプリントの設定をする 68

動画の再生と消去

1. 動画の再生 72
2. その他の機能 73

SET UPの機能と使いかた

1. セットアップメニュー一覧表 75
2. セットアップ内容 76

〈1. セットアップ(1/3)〉
① AFモード
②液晶の明るさ
③日付設定
④日付写し込み
⑤フォーマット
⑥オートOFF

〈2. セットアップ(2/3)〉
⑦モードロック
⑧操作音
⑨シャッター音
⑩選択色変更
⑪起動画面
⑫ RECレビュー

〈3. セットアップ(3/3)〉
⑬言語LANGUAGE
⑭ビデオ出力
⑮連番リセット
⑯設定リセット

3. セットアップの変更のしかた 80
4. "フォーマット"メモリーカードの初期化 81
5. "起動画面"の設定 82

他の機器への接続

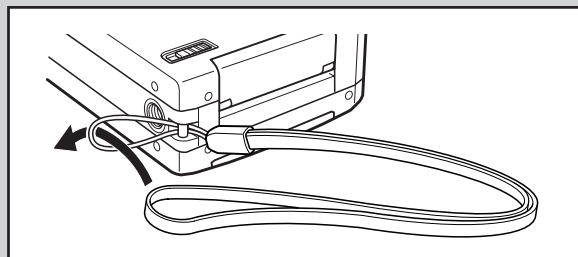
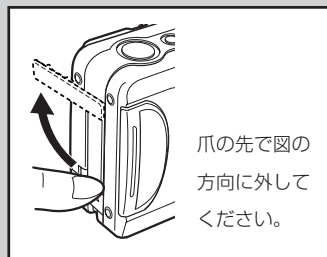
1. テレビで画像を見る 84
2. パソコンにつなぐ 85
〈1. パソコンの使用環境と接続手順〉 85
〈2.USBドライバをインストールする〉 86
〈3.USBケーブルをパソコンに接続する〉 88
〈4. パソコンで画像を見る〉 90
〈5.USBケーブルの取り外しについて〉 93
〈6. デバイスの削除と対処法〉 96
〈7. ドライバソフトが不要になった場合〉 96

その他

1.「故障かな？」とお考えになる前に 98
2. モードや機能の設定状況 101
3. 主な仕様 102
索引 105

ストラップの取り付け

端子カバーの開けかた

爪の先で図の方向に外してください。

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷をを負う危険性が切迫して想定されることを示します。
⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

⚠ 警告	● カメラやバッテリーパックが熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかにバッテリーパックを取り出してください。火災や火傷の原因となります。(バッテリーパックを取り出す際、火傷には十分ご注意ください。) ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目(とくに乳幼児)に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください ● このカメラは高性能ICを使用した電子機器です。ご使用中にICの放熱によりカメラが熱くなることがあります。故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは、メモリーカードを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所（テレビやスピーカーのすぐ近くなど）では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

マイクロコンピューターの保護回路について

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合はカメラ電源をOFFにし、一旦バッテリーパックを取り出してもう一度入れ直してからご使用ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

著作権について

あなたが、実演や興行・展示物などを撮影したものは、個人で楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行・展示物などのうちには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ためし撮りと撮影内容の補償について

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体（メモリーカード）の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈カメラの保管について〉

⚠ 注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、メモリーカードやバッテリーパックの性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときはバッテリーパックを取り出しておいてください。バッテリーパックの液漏れなどによる事故を防ぎます。

〈液晶モニターについて〉

⚠ 注意	● 液晶モニターの画面を強くこすったり、強く押したりすると故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミなどが付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム皮などで軽く拭き取ってください。 ● 万一液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをする恐れがありますので十分ご注意ください。 ● 液晶モニターの破損により中の液晶が皮膚に付着した場合、すみやかに付着物を拭き取り、水で流し、石鹸でよく洗浄してください。また目に入った場合、きれいな水で最低15分間洗浄した後、速やかに医師の診断を受けてください。

● **液晶モニターの特性上、一部の画素で常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また記録される画像には何ら影響ありません。**
● 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくくなる場合があります。

〈リチウムイオンバッテリーパック・使用上のご注意〉

⚠ 危険	● 高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● バッテリーパックの（＋）（－）端子を金属物などでショートさせないでください。発熱、発煙、発火の原因になります。 ● カギ、ネックレス、コインなどの金属物と一緒に保管はしないでください。金属片などと端子が接触してショートする恐れがあります。 ● 火の中に投入したり、加熱しないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 分解や改造はしないでください。発熱、発煙、発火や電池内の液が目に入り失明などの事故の原因になります。万一、電池の液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い流してただちに医師の治療を受けてください。 ● このバッテリーパックは本機専用です。充電の際は必ずカメラまたは専用充電器に装てんして充電してください。バッテリーパックを本機以外に使用したり、指定外の市販の充電器等で充電すると、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。

⚠ 警告	● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。液漏れ、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 液漏れしたバッテリーパックを使用しないでください。バッテリーパック内の液が人体に付着すると傷害を起こす恐れがあります。万一、付着したらすぐにきれいな水で洗い流してください。 ● 破損したバッテリーパックを使用しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。

⚠ 注意	● 水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 濡れたバッテリーパックを使用・充電しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 幼児の手の届く場所には置かないでください。けがなどの事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。液漏れの原因になります。 ● できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。夏期や冬期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が、低下し使用できる時間が短くなります。また、バッテリーパックの寿命も短くなります。 ● バッテリーパックを使用しない場合には、湿気の少ない場所に保管してください。

リチウムイオンバッテリーパック
使用後はリサイクルへ

〈AC アダプター・使用上のご注意〉

⚠ 警告	● プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。 ● コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど痛んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。 ● カバーをはずしたり、分解、修理、改造しないでください。感電する危険があります。 ● プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。 ● 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。 ● 家庭用電源コンセント（AC100V、50/60Hz）以外はつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

⚠ 注意	● ACアダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外のACアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますのでご注意ください。 ● コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足すなどは絶対にしないでください。 ● 濡れた手で ACアダプターを抜き差ししないでください。感電する恐れがあります。 ● コンセントからの抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。 ● ACアダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

● ACアダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
● 長時間使用しないときは安全のため先にカメラ側のプラグをカメラ本体から抜き、その後コンセント側のプラグを抜いてください。
● カメラにバッテリーパックをセットした状態でACアダプターを使う場合、カメラの電源をOFFにしてACアダプターの抜き差しを行ってください。
● このACアダプターは、本機専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

＊ SDロゴは商標です。
＊ MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
＊ MacintoshおよびMac OS、QuickTime™およびQuickTimeロゴは、Apple Computer,Inc.の登録商標です。
＊ PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching Ⅱに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
＊ 全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

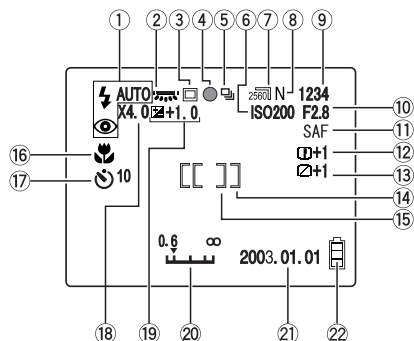
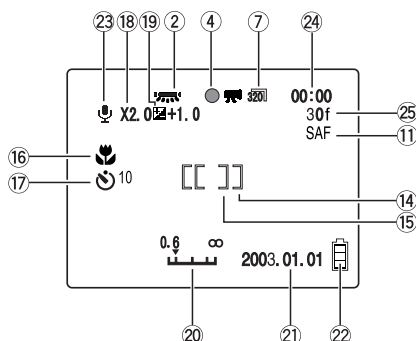
PRINT Image Matching

＊ 本製品はPRINT Image Matching Ⅱに対応しています。PRINT Image Matching Ⅱ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

各部の名称

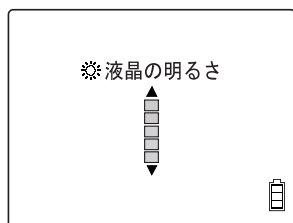
パワーボタン(P19)
シャッターボタン(P19)
端子カバー(P5)
USB 端子(P88)
ビデオ出力端子(P84)
電源入力端子(P14)
ストラップ取り付け部
(P5)
セルフタイマー LED
(P12,34)
測光窓(P39)
ストロボ発光部(P29)
光学ファインダー(P23)
レンズ／レンズバリア
マイク(P58)
警告 LED(P12)
光学ファインダー(P23)
スタンバイ LED(P12)
液晶モニター(P11)
スピーカー
" " 選択レバー(P23)
バッテリーカバー(P14)
ディスプレイボタン
(P21)
" "ストロボボタン(P20)
シーンボタン(P22)
メニューボタン(P22)
モード
ダイヤル(P20)
ズームボタン(ワイドボタン、
テレボタン)(P20)
カードカバー(P5)
カードアクセス LED(P12)
カードカバー
解放レバー(P15)
三脚取り付け穴(P34)
MIC
POWER
DISPLAY
SCENE
MENU
SET UP
W
T
CORD
VIDEO
DC IN
カード挿入部(P15)
カードカバー(P15)
端子カバー(P5)
USB 端子(P88)
ビデオ出力端子(P84)
電源入力端子(P14)
ストラップ取り付け部(P5)

液晶モニターの表示内容（撮影時）

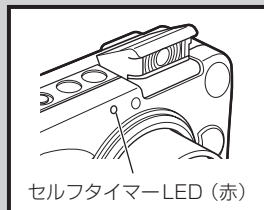
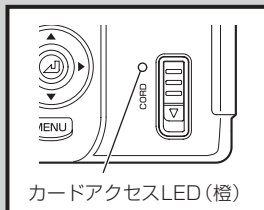
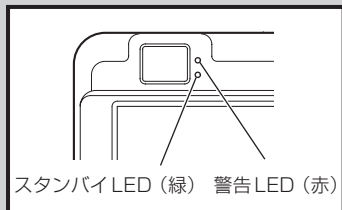
<"" 連続撮影及び "" 1コマ撮影時>

< 動画撮影時>

①ストロボモード →29ページ
②ホワイトバランス／カラーモード
→37ページ／38ページ
③測光モード →39ページ
④合焦マーク（ピントが合うと点灯）
⑤連続撮影 →26ページ
⑥ ISO →39ページ
⑦画素数 →35ページ／47ページ
⑧画質 →35ページ
⑨撮影可能枚数
⑩ AEモード（絞り値）→38ページ
⑪ SAF/CAF →76ページ
⑫シャープネス →38ページ
⑬彩度 →38ページ

⑭⑮フォーカスフレーム
→39ページ／50ページ
⑭ワイドAF　⑮スポットAF
⑯ SCENE（シーン）モード →31ページ
⑰セルフタイマー →34ページ／46ページ
⑱電子ズーム →20ページ
⑲露出補正 →36ページ／48ページ
⑳フォーカスゲージ（フォーカスでMF設定時）
→42ページ
㉑日付 →16ページ
㉒バッテリー残量表示 →14ページ
㉓音声モード →50ページ
㉔撮影可能時間
㉕フレーム／秒→47ページ

これらの図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。

＜液晶モニターの明るさ調整＞（カメラ電源をONにしてください）

基本的にはセットアップモードで調節します（P76参照）が、他のモードでも調節することができます。
"、、、" モード時 ""（選択レバー）を "▲または▼" に倒すと［液晶の明るさ］グラフが表示されます。
"" を "▲または▼" に倒して調節してください。

●音声付静止画及び動画再生時は "DISPLAY"（ディスプレイ）ボタンを1回押して操作ボタン及び音量表示を消してから "" を "▲または▼" に倒すと［液晶の明るさ］グラフが表示されます。

LEDの表示内容

〈スタンバイ LED〉（緑）

“、、” モード	点灯	ピントが合いましたので撮影できます。
	点滅	ピントは合っていませんが、撮影はできます。
バッテリーパック充電時	点灯	充電完了

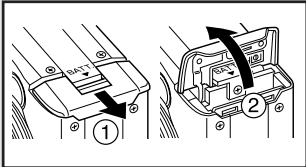
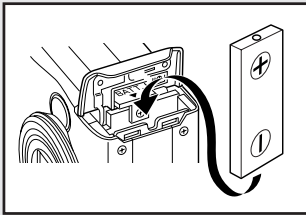
〈警告 LED〉（赤）

“、、” モード	速い点滅	シャッタースピードが遅くなります。カメラぶれに注意して撮影してください。
	遅い点滅	ストロボ充電中です。次の撮影は点滅が終わるまでおまちください。
バッテリーパック充電時	点灯	充電中
	点滅	バッテリーパック、ACアダプター、カメラのいずれかに異常があると考えられます。

〈カードアクセス LED〉（橙）

“、、、▶”モード SET UP” モード	点滅	画像データをメモリーカードに記録したり読み込んだりしているときなど、メモリーカードにアクセスしているとき。

●点滅中はカードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。画像データやメモリーカード、カメラが破損する原因になります。

〈セルフタイマー LED〉（赤）

“、、” モード	点滅	セルフタイマー作動中
	点灯	静止画の撮影時や動画の撮影中
“▶、SET UP” モード	点灯	再生モードまたは SETUP モード設定中
“パソコン” につないでいるとき	点灯	接続中

撮影前の準備と操作確認

撮影前の準備

1. バッテリーパックの入れかたと充電のしかた

〈バッテリーパックの入れかた〉

1 バッテリーカバーを開けます。

バッテリーカバーを下にスライドしてから開けます。

2 付属のリチウムイオンバッテリーパックを入れます。

＋と－の向きにご注意ください。

3 バッテリーカバーを閉めます。

①バッテリーカバーを閉じます。
②スライドしてロックします。

警告LED　スタンバイLED

〈充電のしかた〉

バッテリーパックをカメラに入れ、付属の AC アダプターをカメラの電源入力端子につないで充電します。

●カメラ電源は OFF にしてください。
充電時間は約 5 時間です。
充電中は警告 LED（赤）が点灯します。充電が完了すると警告 LED が消え、スタンバイ LED（緑）が点灯します。

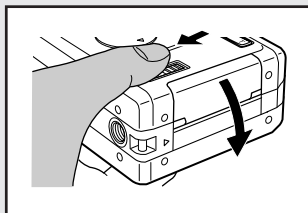
〈充電の目安〉

液晶モニターの“バッテリー残量表示”を目安に充電してください。

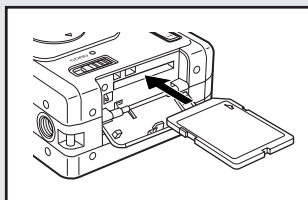
容量は十分です。	半分使った状態です。	残り少ない状態です。早めに充電してください。	カメラは作動しません。充電してください。

2. メモリーカードの入れかたと取り出しかた

1

2

〈メモリーカードの入れかた〉

1 カードカバーを開けます。

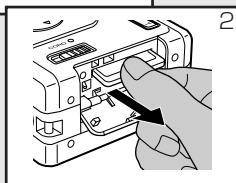
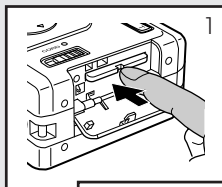
カードカバー開放レバーを下へスライドしてカードカバーを開けます。

2 メモリーカードを入れます。

メモリーカードは“カチッ”と音がして止まるところまで差し込んでください。

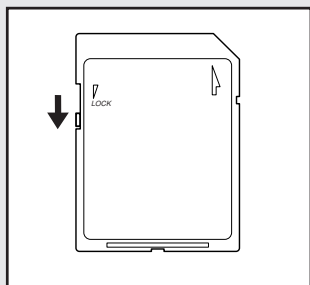
●メモリーカードの向きにご注意ください。

●メモリーカードにシールなどを貼らないでください。取り出せなくなることがあります。

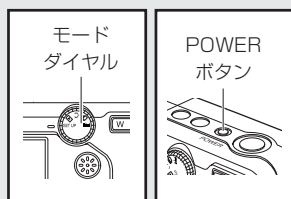
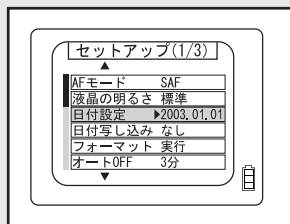
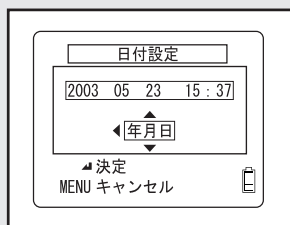
3 カードカバーを閉めます。

〈取り出しかた〉

〈取り出しかた〉

1 メモリーカードを軽く一回押すと少し飛び出します。
2 メモリーカードを指でつまんで取り出してください。

ライトプロテクトスイッチ

〈SDメモリーカードのライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチについて〉

SDメモリーカードには図のようなライトプロテクトスイッチがついています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書き込みが禁止され、カードに保存されている画像などのデータが保護されます。なおこの状態のカードを使っての撮影や消去などはできません。またメニューで選択できない項目がでてきます。
液晶モニターには「ライトプロテクト」と表示されます。

3. 日付・時刻の設定

日付の設定と年月日のならび順を設定します。

1 モードダイヤル
ダイヤル

POWER
ボタン

1 モードダイヤルを “SET UP” にし “POWER” ボタンを押します。

電源が ON になり液晶モニターに “セットアップ（1/3）” 画面が表示されます。

2

2 “◢” （選択レバー）を “▲” または “▼” に倒して “日付設定” を選び “◢” を “▶” に倒します。

液晶モニターに “日付設定” モードが表示されます。

3

3 “◢” を “▶” または “◀” に倒して修正項目を選び、“◢” を “▲” または “▼” に倒して数値を変更します。

●時刻は 24 時間表示です。

4

4 “◢” を “▶” に倒して “年月日” の項を選択します。

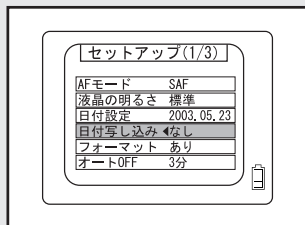
“年月日” のならび順を変えたい時は “◢” を “▲” または “▼” に倒してください。年月日、月日年、日月年から選びます。

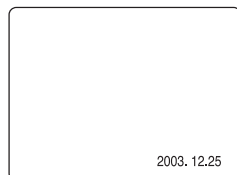
● “ MENU” ボタンを押すと、設定はキャンセルされます。

5 “◢” を押すと設定完了です。

液晶モニターの表示は “セットアップ（1/3）” 画面に戻ります。

日付と時刻は必ず設定してください。
デジタルカメラでは、撮影したときの日付と時刻が画像データと一緒にメモリーカードに保存されますので、パソコンでのデータ管理やアルバムの整理に便利です。

4. 日付の写し込み（静止画）

“ セットアップ（1/3)”（P76）の日付写し込みで［あり］にセットすると、撮影時に日付を画面に写し込むことができます。日付は画像の右下に画像の一部として写し込まれます。

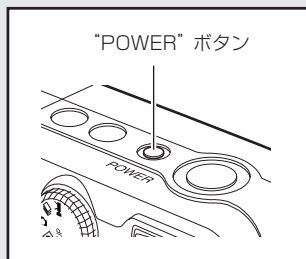
●一度写し込むと消去はできません。

準備と確認

5. カメラの構えかた

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントの悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

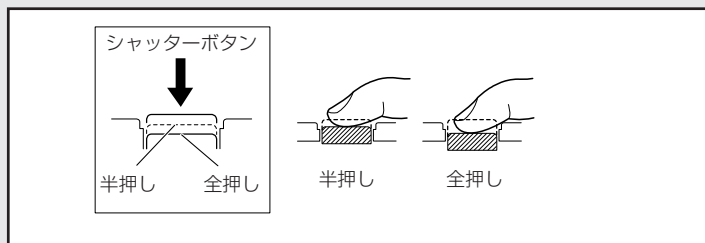
撮影前の準備と操作確認

各部の役目

1. "POWER"（パワー）ボタンについて

カメラ電源のON、OFFの切り替えを行います。

"POWER" ボタンを押すとカメラ電源がONになり、起動音がして液晶モニターに起動画面が表示されます。もう一度押すとカメラ電源が OFF になります。

●起動画面を表示しないようにすることもできます。（P78）

2. シャッターボタンについて

シャッターボタンは 2 段階押せるようになっています。1 段目まで押すことを "半押し" といい、半押しからさらに 2 段目まで押すことを "全押し" といいます。シャッターボタンはそれぞれの位置で次のような働きをします。

半押し

ピント合わせと露出の測定（測光）を行います。

全押し

シャッターが切れて撮影が行われます。

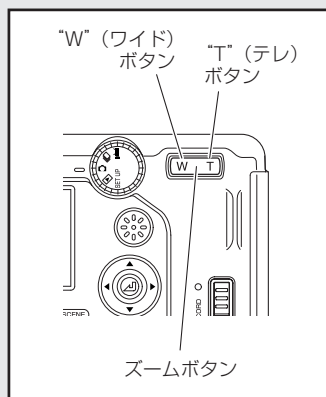
●シャッターボタンはカメラぶれを起こさないように人差し指の腹で軽く押してください。またカメラの構えかた（P17）も必ずお読みください。

●このカメラは、シャッターボタンを全押ししたときのシャッター音量を調節することができます。（P77）

3. モードダイヤルについて

モードダイヤルは次のモード切り替えに使用します。

1 “🎥”（動画撮影）モード（P44）
2 “連写”（連続撮影）モード（P26）
3 “📷”（1コマ撮影）モード（P25）
4 “▶”（再生）モード（P54/72）
5 “SET UP”（セットアップ）モード（P75）
※2、3を静止画撮影モードと呼びます。

4. ズームボタンについて

撮影（🎥、連写、📷）モード時：

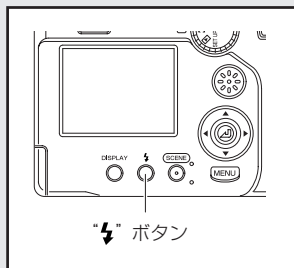
光学ズームおよび電子ズーム（× 1.3、× 1.6、× 2.0、× 3.0、× 4.0）に使用します。

“▶”モード時：

通常再生⇔拡大再生（× 2、× 4、× 8）するときに使用します。（静止画のみ）

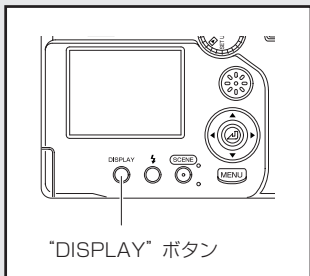
電子ズームについて

●電子ズームは信号処理で画像を補完するため画質は劣化します。
●電子ズームを使用して撮影する場合は液晶モニターを使用して撮影してください。光学ファインダーでは電子ズームした画像は確認できません。
●“🎥”モード時の電子ズーム倍率は（× 1.3、× 1.6、× 2.0）になります。
●液晶モニターOFF時、電子ズームは使用できません。

5. “⚡”（ストロボ）ボタンについて

次の設定をする時に使用します。

“📷、連写”時：ストロボモードを切り替えます。（P29）
1. “⚡AUTO”自動発光モード（初期設定） → 2. “⚡AUTO👁”赤目軽減自動発光モード → 3. “⚡禁止”発光禁止モード → 4. “⚡”強制発光モード→ 1. 自動発光モード（以後繰返し）
● “SCENE”シーンモード時は設定出来るストロボモードが制限されます。（P33）

6. “DISPLAY”（ディスプレイ）ボタンについて

“DISPLAY” ボタン

液晶モニターの表示を切り替えます。

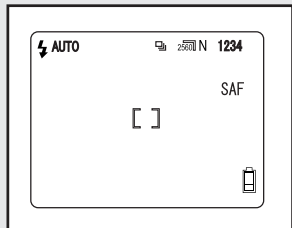
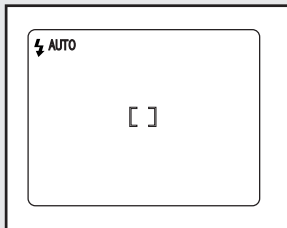
“ ”“ ”“ ” 撮影モード時

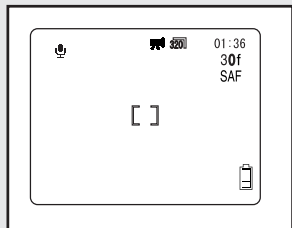
“情報表示あり”、“情報表示なし”、“モニターOFF” の画面に切り替えます。

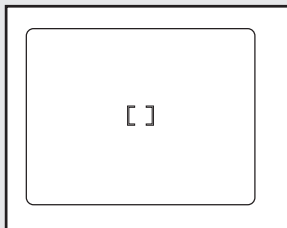
“ ” 再生モード時

①音声なしの静止画再生の場合
　画像のみ→インフォメーション表示
②音声付静止画及び動画の場合
　操作ボタン及び音量表示画像→画像のみ→インフォメーション表示

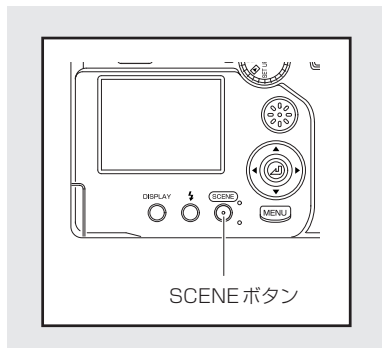
“ 、 ” 時

情報表示あり	情報表示なし	モニター OFF（省電）

各種の設定情報を表示します。（WB、露出補正、ISO、シャープネスなどが表示されます）。

ストロボマーク、シーンモード、フォーカスフレーム、フォーカスゲージ（合焦マーク）のみ。

“ ” 時

情報表示あり	情報表示なし	モニター OFF（省電）

各種の情報を表示します。

シーンモード、フォーカスフレーム、フォーカスゲージ（合焦マーク）のみ。

●電源OFF→電源ONにすると、“情報表示あり” で表示されます。

7. “SCENE”（シーン）ボタンについて

撮影目的に合わせてつぎのシーンモードを選ぶことができます。

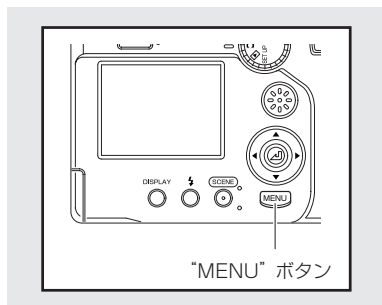
カメラが撮影シーンに合わせて最適の露出を設定します。

“、”時（P31）

1. 標準モード、2. スポーツモード、3. 夜景モード、、4. 夜景ポートレートモード、5. マクロモード、6. 遠景モード

“”時（P45）

1. 標準モード、2. マクロモード、3. 遠景モード

8. “MENU”（メニュー）ボタンについて

“、、、”時、下記メニューの設定をするときに使用します。

●工場出荷時の初期設定はP101をご覧ください。
●メニュー内容表示文字色がグレーの項目は設定できません。

“”時

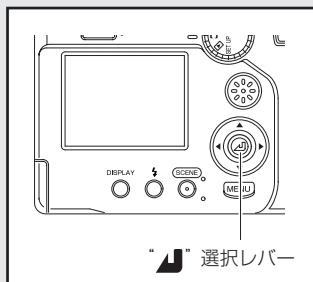
セルフタイマー、画素数、fpsフレーム/秒、露出補正、WBホワイトバランス、M詳細設定（音声、カラーモード、WBプリセット、フォーカス、電子ズーム）

“、”時

セルフタイマー、画素数、画質、露出補正、WBホワイトバランス、M詳細設定（カラーモード、彩度、シャープネス、WBプリセット、AEモード、フォーカス、長時間露光、ISO、測光モード、電子ズーム）

“”時

マルチ／シングル表示、（アフレコ）、プロテクト、消去、全消去、（リサイズ、回転）、スライドショー、（プリント）
※動画再生時は（　）の機能は使用できません。

9. “ ”（選択レバー）について

各モードのメニューや、セットアップ項目等の選択及び決定をするときに使用します。

“ ”（選択レバー）を“▲、▼、◀、▶”に倒して項目を選択し、“ ”を押して決定します。

● “ 、 、 、 ”モード時、“▲”または“▼”に倒して液晶モニターの明暗調整をすることができます。

10. 光学ファインダーについて

<パララックス>

ファインダーから覗いたときの構図　　実際に撮影した画像

旅先やお出かけ先など充電がすぐにできない状況で、電池の消費を抑えたいときは、液晶モニターを消して（OFFにして）光学ファインダーを使った撮影をします。
（P21“DISPLAY”ボタン参照）

〈パララックスについて〉

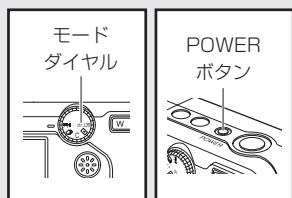
光学ファインダーを使って撮影するときは、光学ファインダーの特性上光学ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲にずれ（パララックス）が生じます。特に被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなります。マクロモードでは液晶モニターを使って撮影してください。

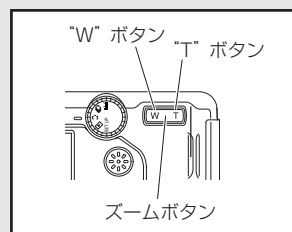
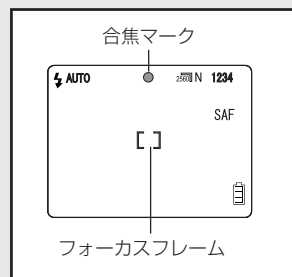
●マクロモードでは、液晶モニターがOFFのときでもシャッターボタンを半押しすると液晶モニターがONになります。

静止画の基本的な撮影

1. "📷" 1コマ撮影

"📷"1コマ撮影モードを利用して簡単な撮影をしてみましょう。モードダイヤルを"📷"にしてカメラ電源をONにすると、カメラが被写体の明るさに応じて、撮影時のシャッタースピードと絞り値(露出)をカメラが自動的にセットするプログラムオート撮影になります。露出設定を気にせず気軽に撮影することができます。

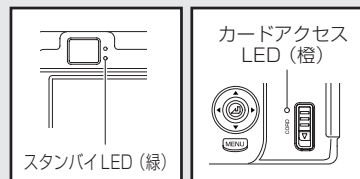
1 モードダイヤルを"📷"にし、"POWER"ボタンを押してカメラ電源をONにします。

自動的にレンズバリアが開き、レンズが繰り出されます。液晶モニターは起動画面が現れた後､撮影画面になります。

●日付が約3秒間表示されます。

2 ズームボタンの"T"または"W"を押して被写体の大きさを決めます。

3 被写体に液晶モニターのフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

カメラが露出設定とピント合わせを行います。｢ピピッ｣と音がして液晶モニター内"○"（合焦マーク、緑）とファインダー横のスタンバイLED（緑）が点灯すると、露出設定とピント合わせは完了です。

●合焦マークとスタンバイLEDが点滅している時は､ピントが合っていません。(撮影はできます。)

●警告LEDが速い点滅をしているときはシャッタースピードが遅くなります。カメラぶれに注意して撮影してください。

●警告LEDが遅い点滅をしているときはストロボ充電中です。消灯するまで次の撮影はお待ちください。

4 "○"（合焦マーク）点灯を確認したら、そのまま静かにシャッターボタンを全押しして撮影します。

撮影した画像はメモリーカードに記録されます。記録中はカードアクセスLED（橙）が点滅します。

●撮影直後に画像を確認することができます。(P78 RECレビュー)

●メモリーカードの撮影可能容量がなくなると、液晶モニターには「カードが一杯です」と表示され、シャッターが切れません。残量のあるメモリーカードに入れ替えてください。また、画素数や画質を変更すると、撮影できる場合があります。

●カードアクセスLEDが点滅中は、画像記録中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データやメモリーカード、カメラが破損する原因になります。

･カメラ本体に振動や衝撃を与える。

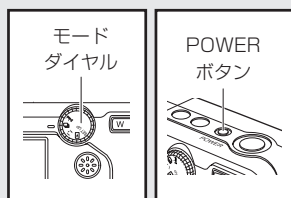
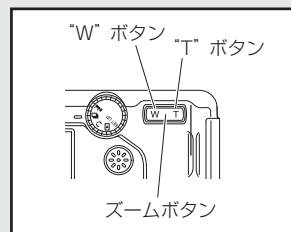
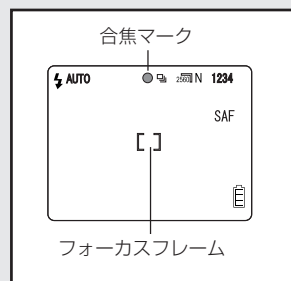
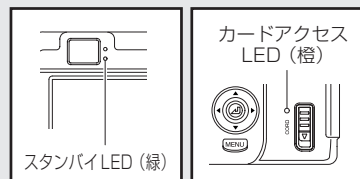
･カードカバーを開ける。あるいはメモリーカードを抜きとる。

･バッテリーパックやACアダプターを取りはずす。

2. “⧉” 連続撮影

“⧉”連続撮影モードを利用して赤ちゃんの可愛いしぐさや、よちよち歩きなどを連続的に撮影してみましょう。シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

●SDメモリーカードへの書き込み速度は、ご使用になるメモリーカードにより異なります。
●高速記録用のSDメモリーカードをご使用の場合は、約3コマ／秒の速度でメモリーカードが一杯になるまで撮影できます。
●約3コマ／秒の性能を十分に発揮するためには、撮影前に本機でSDカードをフォーマットしてからご使用されることをおすすめします。
●撮影と消去を繰り返すと連続撮影スピードが低下する場合があります。このような場合は一旦画像をPCなどに保存した後、メモリーカードを本機でフォーマットしてからお使いください。

1 モードダイヤルを“⧉”にし、“POWER”ボタンを押してカメラ電源をONにします。

自動的にレンズバリアが開き、レンズが繰り出されます。
液晶モニターには“⧉”が表示されます。

●日付が約3秒間表示されます。

2 ズームボタンの“T”または“W”を押して被写体の大きさを決めます。

3 被写体に液晶モニターのフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

カメラが露出設定とピント合わせを行います。ピントが合うと液晶モニター内“○”（合焦マーク緑）とファインダー横のスタンバイLED（緑）が点灯します。

●合焦マークとスタンバイLEDが点滅している時は、ピントが合っていません。（撮影はできます。）

4 “○”（合焦マーク）点灯を確認したら、そのまま静かにシャッターボタンを全押しして撮影します。

シャッターボタンを全押ししている間、最大約3コマ／秒の連続撮影を行います。
撮影した画像はメモリーカードに記録され、記録中はカードアクセスLED（橙）が点滅します。

●最初の1コマ目の露出とピントで固定し、約3コマ／秒での連続撮影になります。
●指を離すと連続撮影は終了します。
●セルフタイマー撮影では、約1秒で3コマ撮影します。メモリーカードの容量が3コマ分ないときは、記録可能なコマ数分撮影します。
●被写体が暗くシャッタースピードが遅くなる時は、連続撮影のスピードも遅くなります。
●シーンモードが、標準モード及びスポーツモードの時は、ストロボモードは発光禁止になります。ストロボを発光させたい場合は、ストロボボタンを押してストロボモードを設定してください。
●ストロボが発光する時は充電をしながらの連続撮影になりますので、撮影スピードは遅くなります。

静止画の応用撮影

1. フォーカスロック撮影

1

2

シャッターボタンを半押しして“○”（合焦マーク）が点灯すると、その時のピントが固定されます（フォーカスロック）。半押ししている間フォーカスロックは継続していますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
構図によって被写体がフォーカスフレームから大きくはずれるときは、フォーカスロックを利用して撮影してください。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われ、合焦音がして液晶モニターの“○”とファインダー横スタンバイLED（緑）が点灯し、ピントが固定されます。
●ピントと同時に露出も固定されます。（AEロック）

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを向け、そのままシャッターボタンを全押しして撮影します。

●フォーカスロックはシャッターボタンから指を離すと解除されます。

〈誤測距および測距不能になりやすい被写体〉

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせて撮影しましょう。

●低コントラストの被写体。
●繰り返し同じパターンのもの。
●暗い被写体。
●水平線など横線だけの被写体。
●非常に明るい被写体や光沢のある被写体。
●フォーカスフレームやその周辺に強い光源がある場合、および太陽光など強い光源が画面内に入る場合。
●フォーカスフレーム内に極度に距離の違う被写体が共存する場合。

2.ストロボ撮影

写したいものや撮影状況に応じて、ストロボを使った撮影をしてください。

静止画撮影モード（ または ）時、“ ”（ストロボ）ボタンを押すごとに次の順に切り替わり液晶モニターに表示されます。希望するモードにして撮影してください。1 AUTO自動発光モード ⇒ 2 AUTO赤目軽減自動発光モード ⇒ 3 発光禁止モード ⇒ 4 強制発光モード（以後繰返し）

●ストロボ撮影時ISO感度を400または800に設定すると、近距離撮影（ISO400では1.5m以下、ISO800では2.5m以下）では露出オーバー気味になります。近距離撮影時はISO感度を200以下に設定することをおすすめします。

〈1. “ AUTO” 自動発光モード〉（初期設定）

カメラが周囲の明るさを判断してストロボの発光が必要か不要かを決めます。

〈2. “ AUTO” 赤目軽減自動発光モード〉

人の目が赤く写ること、これを赤目現象（→☆赤目現象とは）といいます。このモードではストロボが撮影直前と撮影時の2回発光して赤目に写るのを軽減させます。

●1回目の発光では撮影は行われずに、2回目の発光のとき撮影されます。1回目の発光後、カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

☆赤目現象とは

眼球に入った光の反射（眼底反射）によって起こる、瞳が赤く写る現象です。

〈3. “ ” 発光禁止モード〉

夕暮れや室内のムードを活かした写真を撮るなど、ストロボを発光させずに撮影したいときはこのモードにセットしてください。被写体の明るさに露出を決定しますので自然な感じの写真が撮れます。

●暗いときは遅いシャッタースピードになります。（最長1秒）カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

〈4. “ ” 強制発光モード〉

常にストロボを発光させるモードです。

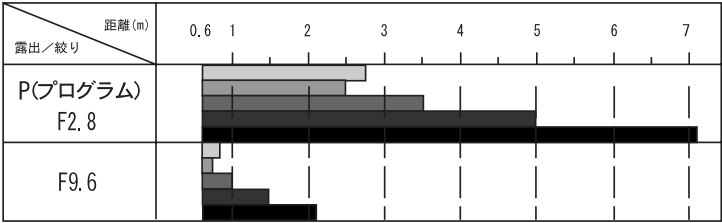
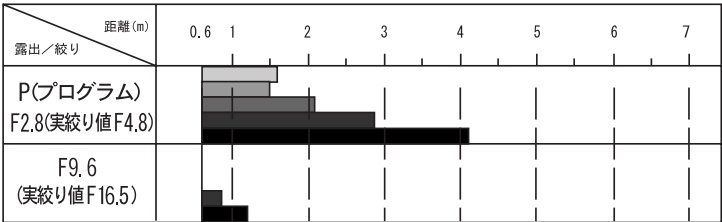
屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、強制発光モードにすると人物も背景もきれいに描写することができます。（日中シンクロ撮影）

■ 次のモードでは選択できるストロボモードが以下のようになります。

夜景モード	:（発光禁止）
夜景ポートレートモード	: AUTO（自動発光）または AUTO（赤目軽減自動発光）
マクロモード	:（発光禁止）または （強制発光）
遠景モード	:（発光禁止）
長時間露光	:（発光禁止）または （赤目軽減強制発光）

> 夕景や夜景など暗いところで人物を撮るときに、背景も活かした撮影を行うときはシーンボタンを使って「夜景・ポートレートモード」で撮影してください。人物も背景もきれいに描写することができます。（P31 参照）

ストロボ撮影距離範囲

ワイド時（f=7.3mm）

テレ時（f=21.9mm）

3. シーンボタンを使った撮影

シーンボタンを使うと、撮影シーンに合わせた最適な露出をカメラが選びます。またその時に設定できるモードの詳細は P33 をご覧ください。

モードダイヤルを“ または ”にしてカメラ電源をONにします。“SCENE”（シーン）ボタンを押すとシーンモードになり、“ ”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して 1. 標準モード → 2. スポーツモード → 3. 夜景モード → 4. 夜景ポートレートモード → 5. マクロモード → 6. 遠景モードに切り替えます。“ ”を押すと設定完了です。

- ●液晶モニターは撮影画面に戻り、シーンモードマークが表示されます。
- ●カメラ電源をOFFにするとシーンモードは解除されます。設定を継続したいときはモードロック（P75）をご利用ください。

標準モード
スポーツモード
夜景モード
夜景ポートレート
マクロモード
遠景モード

〈1. 標準モード〉

通常撮影する時のモードです。

- ● 連続撮影モードでは、ストロボモードは発光禁止になります。ストロボを発光させたい場合は、ストロボボタンを押してストロボモードを設定してください。

〈2. スポーツモード〉

スポーツシーンを撮影するのに最適な露出をカメラが選びます。

AF（オートフォーカス）は連続的にピント合わせを行うコンティニュアスAF（CAF）になります。また動いている被写体を撮影するために、若干速めのシャッタースピードを選ぶ露出プログラムになっています。

- ●シャッター関連を制限しますので、長時間露光、絞り優先、ISO感度設定はできません。
- ● 連続撮影モードでは、ストロボモードは発光禁止になります。ストロボを発光させたい場合は、ストロボボタンを押してストロボモードを設定してください。

〈3. 夜景モード〉

夜景を撮るときは夜景モードをお使いください。

ピントは“無限遠”、ストロボモードは“発光禁止”、ISO感度は“ISO100”、絞りは“F2.8”に固定されます。

- ●カメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。

〈4. 夜景ポートレートモード〉

夜景をバックに人物を撮るときは夜景ポートレートモードをお使いください。

AF（オートフォーカス）は一度ピント合わせを行うとそこで固定するシングルAF（SAF）または連続的にピント合わせを行うコンティニュアスAF（CAF）のいずれかに設定できます。またストロボモードは“自動発光”または“赤目軽減自動発光”のみ設定できます。

- ●カメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。

〈5. マクロモード〉

花やコインなど小さな被写体に近づいて撮るときはマクロモードをお使いください。最短で約 12cm（レンズ面から）まで近づいて撮ることができます。

AF（オートフォーカス）は一度ピント合わせを行うとそこで固定するシングルAFまたは連続的にピント合わせを行うコンティニュアスAFのいずれかに設定できます。またストロボモードは不発光モードに標準セットされますが"強制発光"にも設定可能です。

●マクロモード撮影距離は、被写体からレンズまでの距離：約12cm～約55cmです。
●強制発光の場合、露出オーバーになりますので、露出補正（P36）を使って調節してください。
●マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。光学ファインダーを使っての撮影では、ファインダーでのぞいた構図と実際に撮影した画像の構図が大きくずれます。
●被写体に最も近づいた時のテレ側撮影範囲は、約3.4cm×4.5cmです。（撮影距離：レンズ面から約12cm）

〈6. 遠景モード〉

風景などを撮るときは遠景モードをお使いください。

ピント合わせは∞"無限遠"、ストロボモードは"発光禁止"に固定されます。

シーンモードの設定詳細は次のようになります。○は設定可能

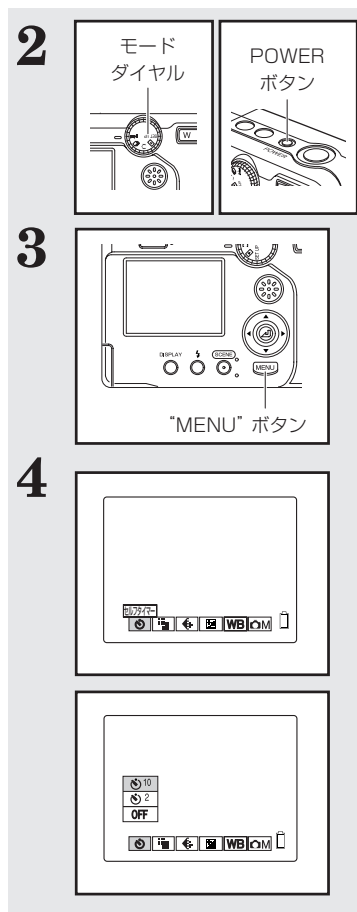
設定詳細＼シーンモード	標準モード	スポーツモード	夜景モード
AFモード(SAF/CAF)	○	CAFに固定	○
ストロボモード	○	○	発光禁止に固定
フォーカス範囲(スポット、ワイド、MF)	○	○	無限遠に固定
長時間露光	○	OFFに固定	OFFに固定
ISO感度設定	○	AUTOに固定	ISO100固定
露出設定	○	専用プログラム	F2.8固定

設定詳細＼シーンモード	夜景ポートレートモード	マクロモード	遠景モード
AFモード(SAF/CAF)	○	○	○
ストロボモード	自動発光または 赤目軽減自動発光	発光禁止または強制発光	発光禁止に固定
フォーカス範囲(スポット、ワイド、MF)	○	スポットまたはワイド	無限遠に固定
長時間露光	OFFに固定	○	○
ISO感度設定	ISO100固定	○	○
露出設定	F2.8固定	○	○

撮影

〈1. セルフタイマー撮影〉

セルフタイマー撮影は、次の撮影を行いたい時にご使用ください。

[10]（10秒）：記念撮影など、ご自身も一緒に写りたいときに使用します。
[2]（2秒）　：接写などでシャッター押し時のカメラぶれ防止に有効です。
[OFF]　　　：セルフタイマー撮影は行わず、シャッターボタンによる撮影になります。

1 カメラを三脚などで固定します。

2 モードダイヤルを"またはの"にし、カメラ電源をONにします。

3 "MENU"ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。""（選択レバー）を"◀"または"▶"に倒して""（セルフタイマー）を選び""を押します。

4 ""を"▲"または"▼"に倒し、"10"（10秒）または"2"（2秒）を選び""を押します。
セルフタイマーマークが表示され、設定完了です。

5 "MENU"ボタンを押してメニュー表示を消します。

6 被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しし、液晶モニターの"○"の点灯を確認してからシャッターボタンを全押しします。

7 セルフタイマーが作動し、10秒または2秒後に撮影が行われます。

●カメラ電源をOFFにするとセルフタイマー撮影は解除されます。
●セルフタイマー作動中はセルフタイマーLEDが点滅します。
●セルフタイマースタート時に露出とピントが固定されます。
●セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマースタート前の状態に戻ります。
●ストロボ充電中はセルフタイマーをスタートすることはできません。
●"" 連続撮影時は約3コマ／秒で撮影します。（暗いところでの撮影やストロボ撮影では撮影間隔が長くなります。）

〈2.画素数と画質の選択〉

画素数とは、画像を作り上げている一つ一つの点（ドット）の数をいいます。

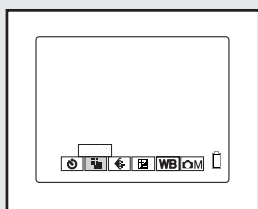
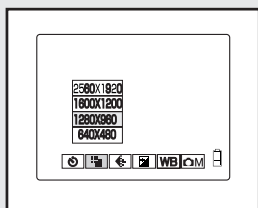
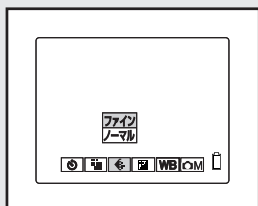
この点の数が多いほど画像の解像度は上がりますが、画像のファイル容量は大きくなるのでメモリーカードに記録できる枚数は少なくなります。

画質とは、撮影した画像をデータ化する際の圧縮率のことです。

“ファイン”は圧縮率を小さくして画像の細かな部分の劣化を抑えます。“ノーマル”は圧縮率を大きくしますので、画像は劣化しますがメモリーカードに記録できる枚数は多くなります。

16MB メモリーカード使用時の記録枚数

画素数	画　　質	
	ファイン（1/4 圧縮）	ノーマル（1/8 圧縮）
2560 × 1920	約 6 枚	約 12 枚
1600 × 1200	約 15 枚	約 29 枚
1280 × 960	約 23 枚	約 43 枚
640 × 480	約 73 枚	約 112 枚

2

3

5

1 モードダイヤルを“または”にし、カメラ電源を ON にします。

2 MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“”（画素数）を選び“”を押します。

3 “”を“▲”または“▼”に倒して希望の画素数を選び“”を押します。

4 “”を“▶”に倒して“”（画質）を選び“”を押します。

5 “”を“▲”または“▼”に倒して希望の画質を選び“”を押します。

画素数と画質のマークが表示され設定完了です。

6 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

〈3.露出補正〉

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。また意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときにも利用します。

補正値は＋2 EV～－2 EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。

●補正値評価測光モードモードで露出補正を行うと自動的に中央重点測光に切り替わります。

2

3

1 モードダイヤルを“または”にし、カメラ電源をONにします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“”（露出補正）を選び“”を押します。

3 “”を“▲”または“▼”に倒し、“補正したい値”を選び“”を押します。

補正値が表示され設定完了です。

4 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

●補正値設定後、撮影しないで解除するときは2～3の手順で補正値を“0.0”にセットしてください。

＋補正

補正なし

－補正

補正なし

逆光などのときは･･･

“＋0.3EV”～“＋2EV”の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは露出を、＋0.3EV～＋2EVの範囲で補正して、露出を多く与えます。

暗い背景などのときは･･･

“－0.3EV”～“－2EV”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは露出を、－0.3EV～－2EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈4. “WB” ホワイトバランスの設定〉

光の状況に応じて順応する人間の目と異なり、このカメラのCCDは白を白く写すために太陽光や室内の電球・蛍光灯などの光源に合わせて色補正が必要です。光源に合わせてホワイトバランスを設定してください。

ホワイトバランスの種類

[AUTO] 初期設定、周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。
[☼] 屋外の晴れた日
[電球] 室内の白熱電球のもと
[雲] 屋外の曇った日
[蛍光灯] 白色蛍光灯のもと
[PS] 白いものに向けて手動セット（P41）

1 モードダイヤルを “カメラまたは連写” にし、カメラ電源を ON にします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“選択レバー”（選択レバー）を “◀” または “▶” に倒して “WB”（ホワイトバランス）を選び “選択レバー” を押します。

3 “選択レバー” を “▲” または “▼” に倒し、希望の項目を選び “選択レバー” を押します。

設定したホワイトバランスマークが表示され設定完了です。

● ［AUTO］マークは表示されません。

4 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

撮影

〈5. その他“M”詳細設定〉

この詳細設定では、AEの設定や長時間露光など一眼レフカメラにあるような機能の設定や、デジタルカメラ特有のカラー設定や彩度の設定ができます。

● “M”詳細設定には1/2と2/2の画面があります。“ ”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して項目を選んでください。

①カラーモード

標準設定はカラーですが、セピア調やモノクロで撮影した写真と同じような色合いが選べます。

[カラー]（初期設定）
[白黒]
[セピア]

②彩度

色の鮮やかさの程度を調整します。

[+]	あざやかさを高めます
[標準]（初期設定）	
[−]	あざやかさを抑えます。

③シャープネス（輪郭強調）

撮影時、被写体の輪郭をはっきり浮き立たせる機能です。適応する強さをお選びください。

[+ 3]	強く
[+ 2]	
[+ 1]	
[標準]（初期設定）	
[− 1]	弱く

④WBプリセット（ホワイトバランス手動設定）

いろいろな光源がミックスしているときや、より厳密なホワイトバランスをとりたいときに設定します。設定方法はP41をご覧ください。

⑤AEモード

このモードは、カメラが自動で絞り値とシャッタースピードを決める［プログラム］と絞り値を固定してシャッタースピードはカメラにお任せの［F2.8］、［F9.6］があります。絞り値が大きいほど、被写体を中心に鮮明に写る範囲（前後）が広がります。

[プログラム]（初期設定）	被写体に合わせてカメラがシャッタースピードと絞り値を決めます。
[F2.8]	鮮明に写る範囲が狭くなり、被写体を際立たせます。
[F9.6]	鮮明に写る範囲が広くなり、被写体も背景も鮮明に写ります。

⑥フォーカス

ピントの合わせかたを選びます。

[ワイド AF]：　　幅が広めのフォーカスフレームです。
[スポット AF]：（初期設定）　標準のフォーカスフレームです。
[MF] マニュアルフォーカス：　撮影距離を自分で決めるときに使用します。
設定方法は P42 をご覧ください。

設定方法は P42 をご覧ください。

●AF：オートフォーカス（カメラが自動でピント合わせを行います。）

⑦長時間露光

2 秒から 8 秒までの長時間撮影ができます。花火や夜景などの撮影に便利です。

[OFF]（初期設定）　通常の撮影（1 秒〜 1/2000 秒）になります。
[2 秒]
[4 秒]
[8 秒]

●カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

⑧ISO

[ISO] はフィルムの ISO 感度に相当するもので、光に対する感応度合を表します。
ISO値が小さいほど光に対する感度が低くなります。ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなり少ない光の量で感応します。ISO 値を大きくすると画像にノイズが増えますので、ノイズを少なくしたいときはなるべく低い ISO 値を選んでください。

●ストロボ撮影時ISO感度を400または800に設定すると、近距離撮影（ISO400では1.5m以下、ISO800では2.5m以下）では露出オーバー気味になります。近距離撮影時はISO感度を200以下に設定することをおすすめします。

[AUTO]（初期設定）　周囲の状況に合わせてカメラが設定します。
[100]
[200]
[400]
[800]

⑨測光モード

露出を合わせる方式を選びます。被写体により使い分けてください。

[評価測光]（初期設定）画面全体を256分割して光の量を測り、その被写体に最適な露出値を決めます。

●露出補正を設定すると自動的に中央重点測光に切り替わります。

[中央重点]　画面のほぼ中央部（スポットより大きい範囲）を重点的に測光します。
[スポット]　画面の中心部を測光します。

⑩電子ズーム

構図を決めるとき、テレボタンで光学ズームを最大にした後テレボタンを押し直すと電子ズームが始まります。（× 1.3、× 1.6、× 2.0、× 3.0、× 4.0 に拡大。P20）。この電子ズームを使用禁止にするときはこのモードを [OFF] に設定します。

[ON]（初期設定）　電子ズームが使えます。
[OFF]　電子ズームは使えません。
＊アイコンの表示はどちらもありません。

●電子ズームの領域にあるときは、液晶モニターに拡大率が表示されます。

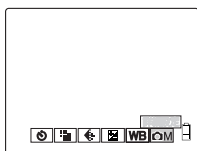
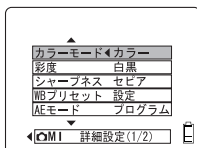
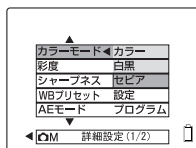
“M”詳細設定の設定方法

詳細設定は次のように行ってください。

●詳細設定には 1/2と2/2 画面があります。“ ”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して項目を選んでください。

●“WB プリセット”および“フォーカス”の［MF］設定はそれぞれ P41、P42 をご覧ください。

2

詳細設定 1/2が表示されます。

3

4

カラーモード内容が表示されます。

例：カラーモードの設定

1 モードダイヤルを“ または ”にし、カメラ電源を ON にします。

2 MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を“▶”に倒して“M”（詳細設定）を選び“ ”を押します。

詳細設定（1/2）が表示されます。

3 “ ”を“▲”または“▼”に倒して“カラーモード”を選び“ ”を“▶”に倒します。

カラーモードの内容が表示されます。

4 “ ”を“▲”または“▼”に倒して“カラーモード”内容を選び“ ”を押します。

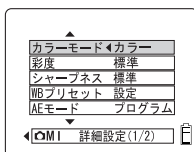
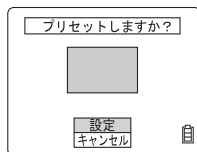
設定が完了し、3 の画面に戻ります。

液晶モニター画面が選択したカラーに変わります。

5 “MENU”ボタンを押すと撮影画面に戻ります。

“WBプリセット”の設定方法（ホワイトバランスの手動設定）

いろいろな光源がミックスしているときや、より厳密なホワイトバランスをとりたいときに設定します。

2

3

1 **モードダイヤルを“ または ”にし、カメラ電源をONにします。**

2 **MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を“▶”に倒して“ M”（詳細設定）を選び“ ”を押します。**

詳細設定（1/2）が表示されます。

3 **“ ”を“▲”または“▼”に倒して“WBプリセット”を選び“ ”を“▶”に倒します。**

［プリセットしますか？］の画面になります。

4 **白の基準としたいものが選択画面一杯になるように近づき、［設定］が選ばれているのを確認し“ ”を押します。**

設定が完了し、2の画面に戻ります。

- “ ”を“▼”に倒し［キャンセル］を選び“ ”を押すと設定作業を中止します。

5 **“MENU”ボタンを押して詳細設定1/2画面を消します。**

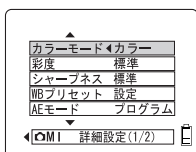
- 液晶モニターには“PS”が表示されます。
- 手動セットしたホワイトバランスはPSとして記憶され続けます。光源が変わったときはセットし直してください。
- カメラ電源OFFでホワイトバランス設定は“AUTO”に戻ります。継続したいときはモードロック（P75）をご利用ください。

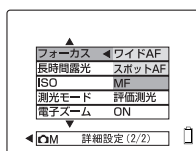
撮影

“フォーカス” の ［MF］ 設定方法 （マニュアルフォーカス）

撮影距離を自分で決めるときに使います。

2

詳細設定 1/2 が表示されます。

4

フォーカスモード内容が表示されます。

1 モードダイヤルを “ または ” にし、カメラ電源を ON にします。

2 MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を “▶” に倒して “ M”（詳細設定）を選び “ ” を押します。

詳細設定（1/2）が表示されます。

3 “ ” を “▲” または “▼” に倒して “フォーカス” を選び “ ” を “▶” に倒します。

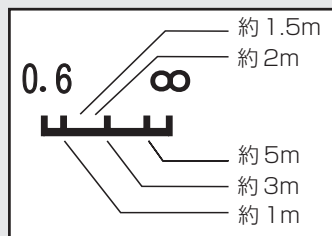
フォーカスの内容が表示されます。

4 “ ” を “▲” または “▼” に倒して “MF” を選び “ ” を押します。

設定が完了し、3 の初めの画面に戻ります。

5 “MENU” ボタンを押して詳細設定 2/2 画面を消します。

液晶モニターにフォーカスゲージが表示されますので、次の方法で撮影距離を手動設定してください。

撮影距離の目安

撮影距離の設定方法

“ ” を “◀” または “▶” に倒して距離を設定します。

- 設定できる距離はおおよそ0.6m、1m、1.5m、2m、3m、5m、∞です。
- ［MF］ のピント合わせはファインダーでは確認できません。液晶モニターをお使いください。

動画の撮影

このカメラは動画を撮影することができます。設定する画素数やフレーム／秒により撮影可能時間及び再生画面サイズが異なります。標準設定時の画素数は 320 × 240、フレーム / 秒は 30 フレーム／秒です。

●画素数及びフレーム／秒の選択は P47 をご覧ください。

●再生画面サイズは P71 をご覧ください。

1. 動画の基本的な撮影

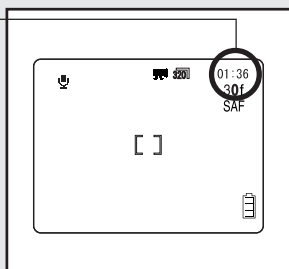
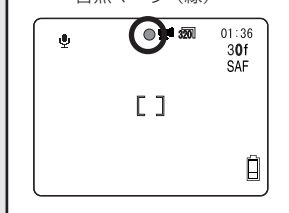
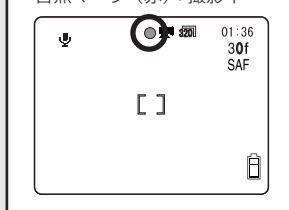
このカメラは動画を撮影することができます。設定する画素数やフレーム／秒により撮影可能時間及び再生画面サイズが異なります。標準設定時の画素数は320×240、フレーム／秒は30フレーム／秒です。（動画と同時に音声も記録されます。）

●画素数及びフレーム／秒の選択はP47をご覧ください。

●再生画面サイズはP71をご覧ください。

1

3

4

1 モードダイヤルを"🎥"にし、"POWER"ボタンを押してカメラ電源をONにします。

●動画撮影では、ストロボは使用できません。

2 液晶モニターを見ながら、構図を決めます。

ズームボタンで被写体の大きさを調整します。

3 被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われると液晶モニター内"○"（合焦マーク）が点灯します。

4 "○"（合焦マーク）の点灯を確認したら、そのままシャッターボタンを全押しすると撮影が始まります。

"○"（合焦マーク）が緑から赤に変わり撮影中であることを表示します。また撮影時間もカウント表示されます。

●撮影中はピントが固定されます。（SAF、CAF共）

●撮影中は光学ズームの使用はできませんが電子ズームは使用できます。（音声ありのとき）"音声なし"（P50）設定時には光学ズーム及び電子ズームが使用できます。

5 シャッターボタンを半押しすると、撮影が終了します。

●撮影可能残り時間が10秒を切ると、カウンター表示が赤になります。

2. シーンボタンを使った撮影

1. モードダイヤルを“ ”にしてカメラ電源を ON にします。
2. “SCENE”（シーン）ボタンを押すとシーンモードになります。

シーンモードは、1. 標準モード、2. マクロモード、3. 遠景モードがあります。

3. “ ”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して希望のシーンモードを選び“ ”を押します。

シーンモードが確定しますので、あとは基本的な撮影（P44）の 2 からの手順で撮影してください。

●カメラ電源をOFFにするとシーンモードは解除されます。設定を継続したいときはモードロック（P75）をご利用ください。

〈1. 標準モード〉

通常撮影する時のモードです。

●撮影中はピントが固定されます。（SAF、CAF共）

〈2. マクロモード〉

近距離の被写体を撮影する時のモードです。（撮影範囲：レンズ面より約12cm〜約55cm）

AF（オートフォーカス）は一度ピント合わせを行うとそこで固定するシングルAFまたは連続的にピント合わせを行うコンティニュアス AF のいずれかに設定できます。

●撮影中はピントが固定されます。（SAF、CAF共）

〈3. 遠景モード〉

遠景を撮影するためのモードです。

ピントは“無限遠”に固定されます。

シーンモードの設定詳細は次のようになります。○は設定可能

シーンモード / 設定詳細	標準モード	マクロモード	遠景モード
AFモード(SAF/CAF)	○	○	○
フォーカス（スポット、ワイド、MF）	○	スポットまたはワイド	無限遠に固定

撮影

3. メニューボタンを使った撮影

〈1. セルフタイマー撮影〉

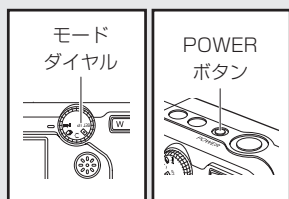
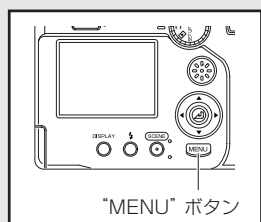
セルフタイマー撮影は、次の撮影を行いたい時にご使用ください。

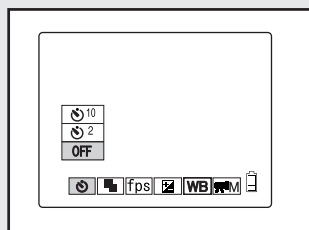
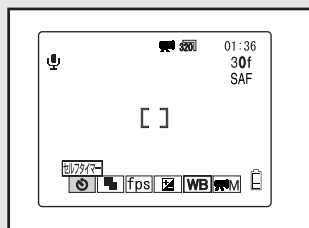
[10]（10 秒）：記念撮影など、ご自身も一緒に写りたいときに使用します。
[2]（2 秒）　：接写などでのシャッター押し時のカメラぶれ防止に有効です。
[OFF]　　　　：セルフタイマー撮影は行わず、シャッターボタンによる撮影になります。

2

モード
ダイヤル

POWER
ボタン

3

“MENU” ボタン

4

1 カメラを三脚などで固定します。

2 モードダイヤルを “ ” にし、カメラ電源をONにします。

3 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を “◀” または “▶” に倒して “ ”（セルフタイマー）を選び “ ” を押します。

4 “ ” を “▲” または “▼” に倒し、“10”（10秒）または “2”（2秒）を選び “ ” を押します。
セルフタイマーマークが表示され、設定完了です。

5 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

6 被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しし、液晶モニターの “○” の点灯を確認してからシャッターボタンを全押しします。

7 セルフタイマーが作動し、10秒または2秒後に撮影がスタートします。

8 シャッターボタンを半押しすると、撮影が終了します。

- ●カメラ電源をOFFにするとセルフタイマー撮影は解除されます。
- ●セルフタイマー作動中はセルフタイマーLEDが点滅します。
- ●セルフタイマースタート時にピントが固定されます。
- ●セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマースタート前の状態に戻ります。

〈2.画素数とフレーム／秒の選択〉

動画では3種類の画素数と2種類のフレーム／秒を選ぶことができます。画素数が多いほどきめ細かい画像になり、フレーム／秒が多いほうが滑らかな動画になります。また、そのときの撮影時間は次のようになります。

●撮影画素数により再生時の画面サイズが異なります。詳しくはP71をご覧ください。

16MBメモリーカード使用時の最大記録時間

画素数	30フレーム／秒（初期設定）	15フレーム／秒
640 640×480	約6秒	約12秒
320 320×240（初期設定）	約25秒	約49秒
160 160×120	約93秒	約175秒

2

3

5

1 モードダイヤルを“（動画）”にし、カメラ電源をONにします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“（選択レバー）”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“（画素数）”（画素数）を選び“（選択レバー）”を押します。

3 “（選択レバー）”を“▲”または“▼”に倒して希望の画素数を選び“（選択レバー）”を押します。

4 “（選択レバー）”を“▶”に倒して“fps”（フレーム／秒）を選び“（選択レバー）”を押します。

5 “（選択レバー）”を“▲”または“▼”に倒して希望のフレーム／秒を選び“（選択レバー）”を押します。

画素数とフレーム／秒が表示され、設定完了です。

6 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

撮影

〈3. 露出補正〉

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。また意図的に露出オーバー、アンダーの動画を撮りたいときにも利用します。

補正値は＋ 2EV ～－ 2EV までの範囲内で 1/3EV ごとにセットすることができます。

2

3

1 モードダイヤルを“ ”にし、カメラ電源をONにします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“ ”（露出補正）を選び“ ”を押します。

3 “ ”を“▲”または“▼”に倒し、“補正したい値”を選び“ ”を押します。

補正値が表示され、設定完了です。

4 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

●補正値設定後、撮影しないで解除するときは2～3の手順で補正値を“0.0”にセットしてください。

逆光などのときは･･･

“＋ 0.3EV”～“＋ 2EV”の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは露出を、＋ 0.3EV ～＋ 2EV の範囲で補正して、露出を多く与えます。

＋補正

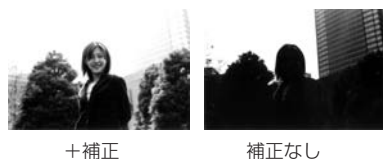
補正なし

暗い背景などのときは･･･

“－ 0.3EV”～“－ 2EV”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは露出を、－ 0.3EV ～－ 2EV の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

－補正

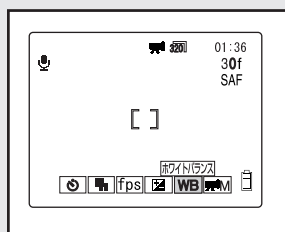
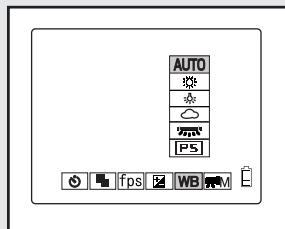
補正なし

〈4. “WB” ホワイトバランスの設定〉

光の状況に応じて順応する人間の目と異なり、このカメラのCCDは白を白く写すために太陽光や室内の電球・蛍光灯などの光源に合わせて色補正が必要です。光源に合わせてホワイトバランスを設定してください。

ホワイトバランスの種類

[AUTO] 初期設定、周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。
[ ] 屋外の晴れた日
[ ] 室内の白熱電球のもと
[ ] 屋外の曇った日
[ ] 白色蛍光灯のもと
[PS] 白いものに向けて手動セット（P50）

2

3

1 モードダイヤルを“ ”にし、カメラ電源をONにします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“WB”（ホワイトバランス）を選び“ ”を押します。

3 “ ”を“▲”または“▼”に倒し、希望の項目を選び“ ”を押します。

設定したホワイトバランスマークが表示され設定完了です。

4 “MENU”ボタンを押してメニュー表示を消します。

撮影

〈5. その他“M”詳細設定〉

この詳細設定では、音声モードや WB プリセット、電子ズーム等の設定ができます。

①音声モード

動画を撮るとき一緒に音声も記録するか、または音声なしにするかの設定ができます。

[あり]（初期設定）: 音声付きの動画が撮れますが撮影中の光学ズームはできません。電子ズームはできます。

[なし]: 動画に音声は付きませんが撮影中のズーミングができます。

●設定方法は P51 をご覧ください。

②カラーモード

標準設定はカラーですが、セピア調やモノクロで撮影した写真と同じような色合いが選べます。

[カラー]（初期設定）

[白黒]

[セピア]

●設定方法は P40 をご覧ください。またモードダイヤルは“”にしてください。

③ WB プリセット（ホワイトバランス手動設定）

いろいろな光源がミックスしているときや、より厳密なホワイトバランスをとりたいときに設定します。

●設定方法は P41“をご覧ください。またモードダイヤルは“”にしてください。

④フォーカス

ピントの合わせかたを選びます。

[ワイド AF]: 幅が広めのフォーカスフレームです。

[スポット AF]:（初期設定） 通常のフォーカスフレームです。

[MF] マニュアルフォーカス: 撮影距離を自分で決めるときに使用します。

○ AF : オートフォーカス（カメラが自動でピント合わせを行います。）

●設定方法は P42 をご覧ください。またモードダイヤルは“”にしてください。

⑤電子ズーム

構図を決めるとき、テレボタンで光学ズーム最大にした後テレボタンを押し直すと電子ズームが始まります。（× 1.3、× 1.6、× 2.0 に拡大。P20）。この電子ズームを使用禁止にするときはこのモードを［OFF］に設定します。

[ON]（初期設定） 電子ズームが使えます。

[OFF] 電子ズームは使えません。

＊アイコンの表示はどちらもありません。

●電子ズームの領域にあるときは、液晶モニターに拡大率が表示されます。

●設定方法は P51 をご覧ください。また詳細設定項目は［電子ズーム］してください。

●動画撮影後、電子ズームは解除されます。

"M" 詳細設定の設定方法

2

320 00:22
30
詳細設定
fps WB M

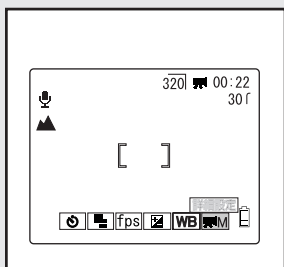
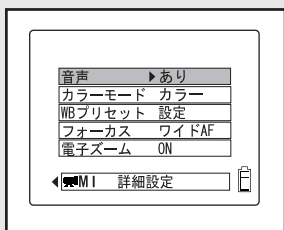
3

音声	▶あり
カラーモード	カラー
WBプリセット	設定
フォーカス	ワイドAF
電子ズーム	ON

◀ MI 詳細設定

4

音声	▶あり
カラーモード	なし
WBプリセット	設定
フォーカス	ワイドAF
電子ズーム	ON

◀ MI 詳細設定

例：音声モードの設定［なし］に設定する場合

●撮影後の動画にアフレコはできません。

1 モードダイヤルを""にし、カメラ電源をONにします。

2 MENU"（メニュー）ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。""（選択レバー）を"◀"または"▶"に倒して"M"（詳細設定）を選び""を押します。

"M" 詳細設定が表示されます。

3 "音声" が選ばれているのを確認し "" を "▶" に倒します。

音声モードの内容が表示されます。

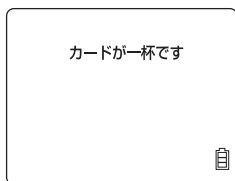
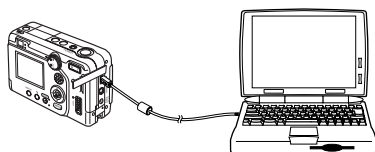
4 "" を "▼" に倒して "なし" を選び "" を押します。

5 "MENU"ボタンを押してメニュー表示を消します。

設定が完了し、２の画面に戻り ""（音声なしマーク）が表示されます。

②カラーモードの設定はP40,③WBプリセットの設定はP41、④フォーカスの設定はP42をご覧ください。また、そのときのモードダイヤルは "" にしてください。

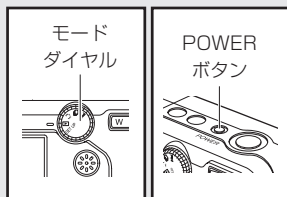
撮影

画像がいっぱいになったら…

メモリーカードに画像を記録できなくなると、「カードが一杯です」のメッセージが液晶モニターに現れます。
このときは新しいメモリーカードに差し替えるか、パソコンに画像を保存してからメモリーカードにある画像を消してください。

パソコンに画像を保存する場合は、付属のUSBケーブルを使います。詳しくは85ページをご覧ください。また、メモリーカードにある画像を全て消す場合は「全消去」と「フォーマット」の2通りがあります。「全消去」は61ページ、「フォーマット」は81ページをご覧ください。

静止画の再生と消去

再生メニュー機能は次のようになります。(○：できます。×：できません。)

	マルチ表示 シングル表示	アフレコ	プロテクト	消去	全消去	リサイズ	回転	スライド ショー	プリント
静止画	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動画	○	×	○	○	○	×	×	○	×

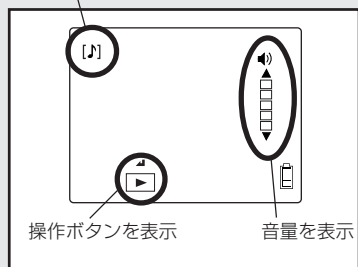
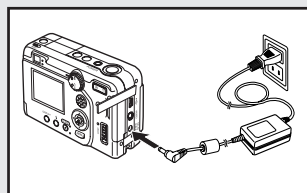
1

1 モードダイヤルを“[▶]”にし、カメラの電源をONにします。

●撮影済みのメモリーカードが入っていることをご確認ください。

2

2 液晶モニターに最後に撮影された画像が再生されます。

撮影した順に、“◢”（選択レバー）の“▶”で順送り、“◀”で逆送りができます。

音声付静止画

●音声付き静止画は“[♪]”マークが表示されます。“◢”を押すと音声が再生されます。また音声再生中に“◢”を“▲”または“▼”に倒して音量を調整します。
●操作ボタン及び音量表示を消すことができます。“DISPLAY”（ディスプレイ）ボタンを押すと液晶モニター表示が切り変わります。
操作ボタン及び音量表示→画像のみ→インフォメーション表示

長時間使用する場合は、AC アダプターをつないでください。

2.再生画像のクローズアップ（2倍、4倍、8倍）

1

2

3

再生した静止画を２倍または４倍、８倍に拡大することができます。

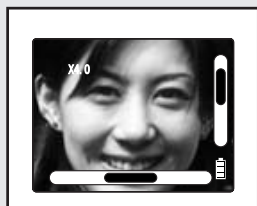
1 **拡大したい画像を表示します。**

2 **“T”（テレ）ボタンを押します。**

“T”ボタンを押すと押す毎に画像の中央部が２倍、４倍、８倍に拡大され、画面に領域表示バーと拡大率（“×2.0”、“×4.0”または“×8.0”）が表示されます。

3 **“◢▌”（選択レバー）の“◀、▶、▲、▼”を使って拡大したい領域を選びます。**

●領域表示バーは拡大位置と拡大する幅を表示します。
●拡大を解除するときは“W”（ワイド）ボタンを押して元の表示に戻してください。
●次の画像または前の画像に切り替えるときは拡大を解除してください。

3. 撮影時の情報表示（インフォメーション表示）（）

画像を撮影したときに設定した内容を表示することができます。この表示をインフォメーション表示といいます。

1 インフォメーション表示したい画像を表示します。

2 "DISPLAY"（ディスプレイ）ボタンを押します。
画像と一緒に、撮影したときの設定内容が表示されます。

●音声付静止画及び動画の表示は次のようになります。
操作ボタン及び音量表示→画像のみ→インフォメーション表示

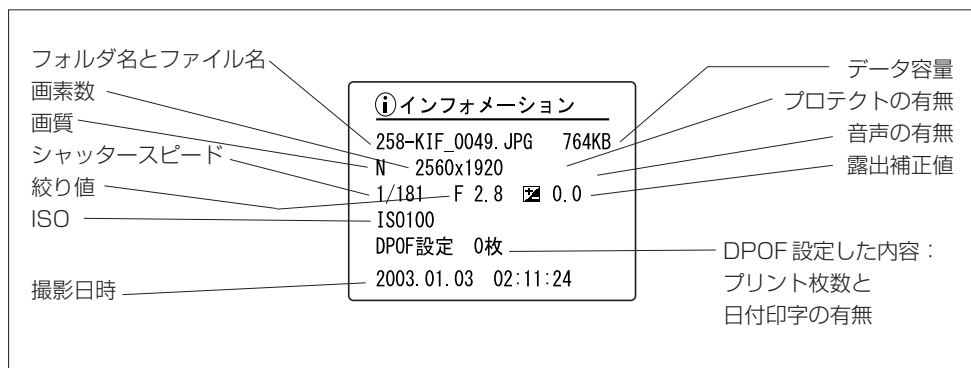
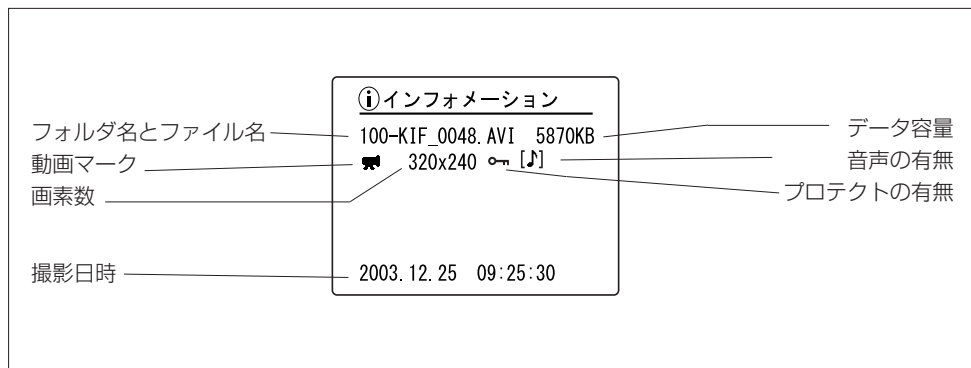
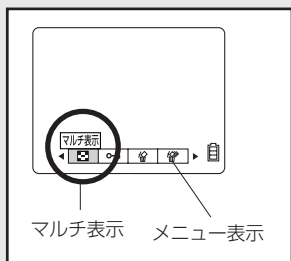
3 再度"DISPLAY"ボタンを押すと元の表示に戻ります。

静止画

動画

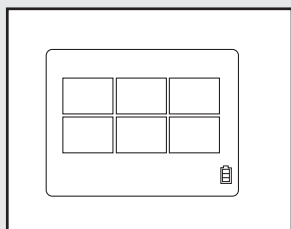
2

3

4

液晶モニターに6画面ずつ再生します。たくさんの画像を選ぶときに便利な機能です。また、この機能は他の再生メニューと使うこともできます。

1 モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。

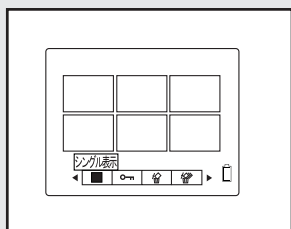
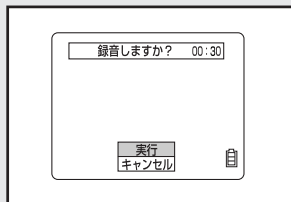
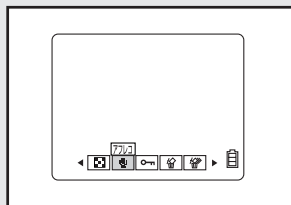
2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“▦”（マルチ表示）を選び、“◢”を押します。

液晶モニターの画面がマルチ表示の画面に変わります。

3 “◢”を“▲、▼、◀、▶”に倒して画像を選びます。

4 “◢”を押すと選んだ画像が通常表示（シングル表示）になります。

〈便利な使いかた〉

マルチ表示中に“MENU”（メニュー）ボタンを押すと他の再生やプロテクト、消去等の機能も使えます。“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒してメニューを選んでください。

●メニュー表示中、画像の選択はできません。“MENU”ボタンを押してメニュー表示を消すと画像の選択ができます。

5. [アフレコ] 画像に声のメッセージを入れる

撮った画像（静止画）に音声を入れたり、消したりすることができます。

●メモリーカードの残量が少ない時には、アフレコ録音ができない場合があります。

〈録音のしかた〉

1 **モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。**

2 **“MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“🎙”（アフレコ）を選び、“◢”を押します。**

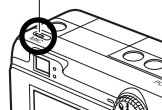
液晶モニターには［録音しますか？］が表示されます。

3 **“◢”を“◀”または“▶”に倒して録音したい画像を表示します。**

●録音済み画像の場合は［音声消去しますか？］の表示がでます。録音し直す時は音声消去（P59）してください。

4 **“◢”を“▲”に倒して［実行］を選んで“◢”を押すと、録音を始めます。カメラのマイクに向かってメッセージをお話ください。**

液晶モニターに録音できる残りの秒数をカウントダウン表示します。

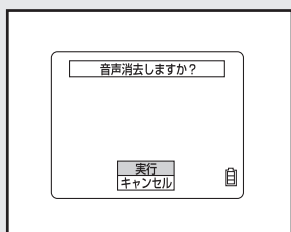
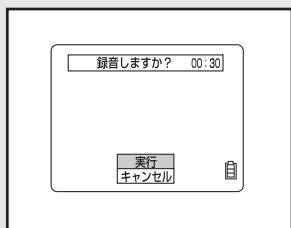
●最長30秒まで録音できます。

5 **録音を途中で終わらせるときは“◢”を押します。**

録音を途中で終わらせたときや終了したときは、2の画面に変わります。

●記録した音声ファイルは、対象画像と同じフォルダにKIF-XXXX.WAVで保存されます。

3

音声消去しますか？

実行
キャンセル

〈音声消去のしかた〉

音声付き静止画の音声を消去するときの手順です。
消去した音声を元に戻すことはできませんので、ご注意ください。

●プロテクトしてある画像の音声消去はできません。

1 **モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。**

2 **“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して音声消去したい画像を選びます。**

音声付き静止画は液晶モニターに“[♪]”が表示されます。

3 **“MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”を“◀”または“▶”に倒して“🎙”（アフレコ）を選び“◢”を押します。**

液晶モニターには［音声消去しますか？］が表示されます。

4 **“◢”を“▲”に倒し［実行］を選んで“◢”を押します。**

音声が消去され［録音しますか？］の画面に変わります。

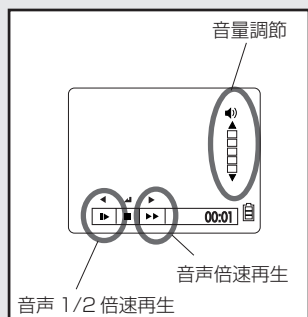
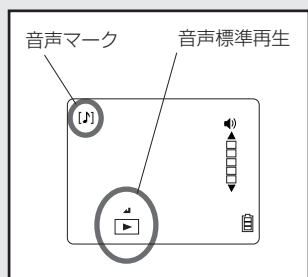
5 **作業の終了は“MENU”ボタンを押します。**

〈音声再生のしかた〉

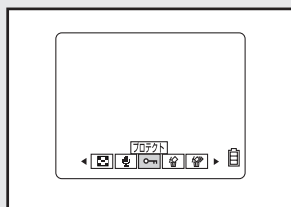
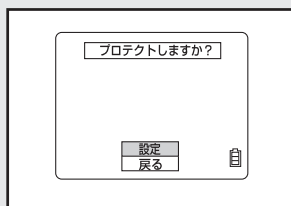
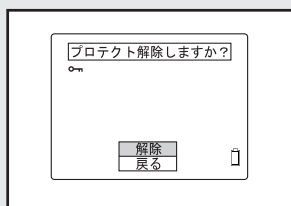
音声付き静止画は図のように表示されます。

“◢”を押すと音声再生が始まります。

●再度“◢”を押すと音声再生を停止します。
●“◢”を“▲”または“▼”に倒して音量の調節をします。
●“◢”を“▶”に倒し続けると音声の倍速再生になり、離すと標準再生に戻ります。
●“◢”を“◀”に倒し続けると音声の1/2倍速再生（遅くなる）になり、離すと標準再生に戻ります。

6.［プロテクト］画像の保護

大切な画像を間違って消さないようにする機能です。

この機能は、複数の画像を削除するとき、全消去（P61）の機能と併せて使うと便利です。

●プロテクトした画像は、全消去では残りますが、フォーマットすると消去されてしまいますのでご注意ください。

1 **モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をON にします。**

2 **“MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢▌”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“O━”（プロテクト）を選び“◢▌”を押します。**

液晶モニターには［プロテクトしますか？］が表示されます。

3 **“◢▌”を“◀”または“▶”に倒してプロテクトしたい画像を選びます。**

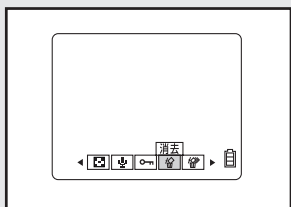
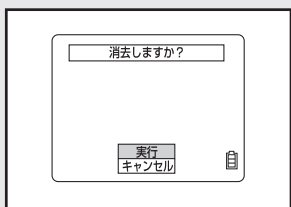
4 **“◢▌”を“▲”に倒して［設定］を選び、“◢▌”を押すと画像のプロテクト完了です。**

液晶モニターには“O━”マークと［プロテクト解除しますか？］が表示されます。

●解除する場合は“◢▌”を“▲”に倒して［解除］を選び“◢▌”を押します。（O━マークが消えます。）

> 複数画像へのプロテクトを続ける場合は３～４の操作を繰り返してください。

5 **作業の終了は“MENU”ボタンを押します。**

●設定後、プロテクトされた画像を確認するときはインフォメーション（P56）を表示するか、マルチ表示（P57）で“O━”マークを確認してください。

〈1画像消去〉

1 モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“🗑”（消去）を選び“◢”を押します。
液晶モニターには［消去しますか？］が表示されます。

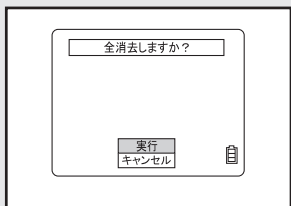
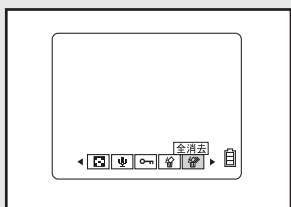
3 “◢”を“◀”または“▶”に倒して消去したい画像を選びます。

4 “◢”を“▲”に倒して［実行］を選び“◢”を押します。
●消去が完了すると消去した次の画像が表示されます。
●音声付き画像の場合は、音声も一緒に消去されます。
●プロテクトした画像はプロテクトを解除（P60）してから消去してください。

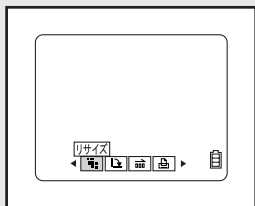
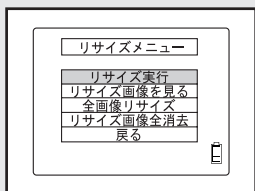
〈全画像消去〉

1 モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。

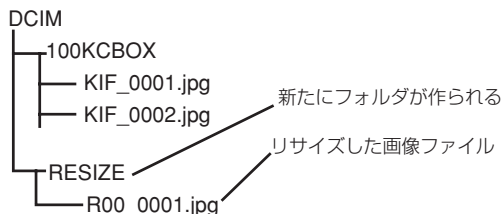
2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“🗑”（全消去）を選び“◢”を押します。
液晶モニターには［全消去しますか？］が表示されます。

3 “◢”を“▲”に倒して［実行］を選び“◢”を押します。
●静止画、動画共全消去されます。
●消去が完了すると［画像がありません］メッセージまたはプロテクトされていた画像が表示されます。
●音声付き画像の場合は、音声も一緒に消去されます。
●プロテクトした画像はプロテクトを解除（P60）してから消去してください。
●他社製のカメラで撮影した画像は消去できないことがあります。

8. [リサイズ]

撮った画像の画素数変更（リサイズ）と切り取る（トリミング）ことができます。リサイズやトリミングした画像は新たな画像として保存されますので、元の画像は残しておくことができます。

2

3

4

5

●リサイズした画像は次のように記録されています。
●他社カメラやコンタックスデジタルカメラで撮影した画像はリサイズできません。

〈1 画像リサイズのしかた〉

1 **モードダイヤルを “▶” にし、カメラの電源を ON にします。**

2 **“MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を “◀” または “▶” に倒して “ ”（リサイズ）を選び “ ” を押します。**
［リサイズメニュー］画面になります。

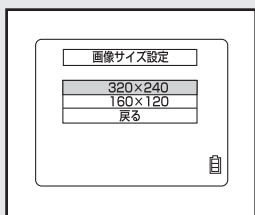
3 **“ ” を “▲” または “▼” に倒して［リサイズ実行］を選び “ ” を押します。**
［リサイズ画像選択］画面になります。

4 **“ ” を “◀” または “▶” に倒しリサイズする画像を選択し、“ ” を “▲” に倒し［決定］を選び “ ” を押します。**
画像エリア選択の画面になります。

5 **リサイズする範囲を決めます。**
画像エリア選択画面に表示されている範囲で画像をリサイズします。
“T”、“W” ボタンを押して拡大率（1 倍、2 倍、4 倍）を、“ ” を “▲／▼／◀／▶” に倒して位置を決めたら “ ” を押します。

6

7

ファイルを保存しました
R00_0001.JPG 13KB
OK

6 “↵” を “▲” または “▼” に倒し画像サイズを選択し、“↵” を押します。

7 リサイズした新たな画像と名前が表示されますので確認したら “↵” を押します。

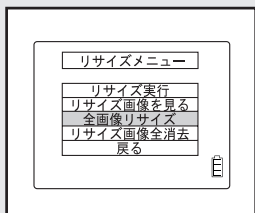
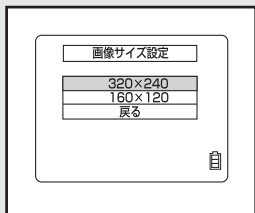
●下記の<ご注意>をご覧ください。

8 作業終了は “MENU” ボタンを押します。

> <ご注意>
> “ファイル番号エラー” が表示されるときは、リサイズフォルダの記録可能番号をオーバーするメッセージで、ファイル記録できません。リサイズ全消去またはメモリーカードのフォーマットを行ってください。また残しておきたい画像やリサイズ画像はPCにコピーしてください。
> ●メモリーカードが容量不足の場合は、保存できない画像があった時点でリサイズを終了します。
> ●リサイズ画像はR00_0001.jpg～R00_9999.jpgまで記録できます。

3

4

画像サイズ設定
320×240
160×120
戻る

〈全画像リサイズのしかた〉

リサイズのしかたの２まで同じ操作です。

3 “↵” を “▲” または “▼” に倒して［全画像リサイズ］を選び “↵” を押します。

［画像サイズ設定］画面になります

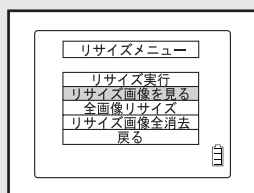
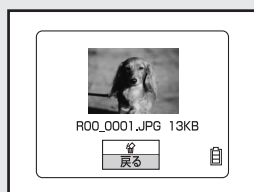
4 “↵” を “▲” または “▼” に倒し画像サイズを選択し、“↵” を押します。

5 全画像リサイズが実行され、終了すると［ファイルを保存しました］の画面になりますので “↵” を押します。

●上記の<ご注意>をご覧ください。

6 作業の終了は “MENU” ボタンを押してください。

再生と消去

3

5

〈リサイズした画像の確認と消去〉

リサイズした画像は通常の再生では確認できません。
次の手順で表示させてください。
リサイズのしかたの２まで同じ操作です。

3 **“ ” を “▲” または “▼” に倒し［リサイズ画像を見る］を選び “ ” を押します。**

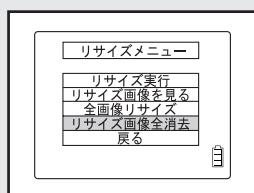
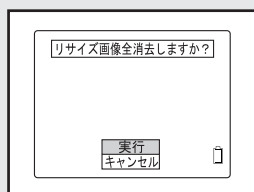
リサイズした画像が表示されます。

4 **“ ” を “◀” または “▶” に倒し画像の順送り、逆送りを行います。**

5 **消去する場合は、“ ” を “▲” に倒し “ ” を選び “ ” を押します。**

●ここでの消去は確認画面がなく、決定ボタンを押すと画像の消去は完了しますので、ご注意ください。

6 **作業の終了は “MENU” ボタンを押します。**

3

4

〈リサイズ画像の全消去〉

リサイズのしかたの２まで同じ操作です。

3 **“ ” を “▲” または “▼” に倒して［リサイズ画像全消去］を選び “ ” を押します。**

［リサイズ画面全消去しますか？］画面になります

4 **“ ” を “▲” に倒し［実行］を選択し、“ ” を押します。**

5 **リサイズ画像全消去が実行され、終了すると３の画面に戻ります。**

2

3

4

5

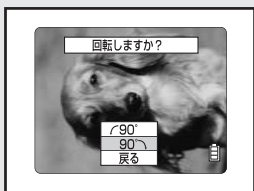
画像を右 90° または左 90° に回転させせます。

●プロテクトされている画像は回転できません。

●他社カメラやコンタックスデジタルカメラで撮影した画像は回転できません。

1 モードダイヤルを “▶” にし、カメラの電源を ON にします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“⏎”（選択レバー）を “◀” または “▶” に倒して “⤵”（回転）を選び “⏎” を押します。

液晶モニターには［回転しますか？］が表示されます。

3 “⏎” を “◀” または “▶” に倒して回転させたい画像を選びます。

4 “⏎” を “▲” または “▼” に倒し［90°⤵］を選び “⏎” を押します。

［⤶ 90°］: 左に 90° 回転します。

［90°⤵］: 右に 90° 回転します。

［ 戻る ］: 作業を中止してメニュー表示に戻ります。

5 回転した画像が表示されます。

●続けて作業をするときは３～４の作業を繰り替えします。

●回転した画像を保存することはできません。

6

作業の終了は “MENU” ボタンを押します。

再生と消去

画像を一定間隔で撮影した順に表示させせます。

1 モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。

2

“MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“ ”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒して“ ”（スライドショー）を選び“ ”を押します。

液晶モニターには[スライドショー設定]画面が表示されます。

3 “ ”を“▲”または“▼”に倒して［再生間隔］を選び“ ”を“▶”に倒します。

4

“ ”を“▲”または“▼”に倒して時間を選び“ ”を押します。

5 “ ”を“▲”または“▼”に倒して［開始画像］を選び“ ”を“▶”に倒します。

6

“ ”を“▲”または“▼”に倒して［現在の画像］または［最初の画像］を選び“ ”を押します。

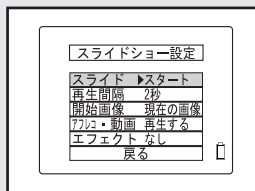
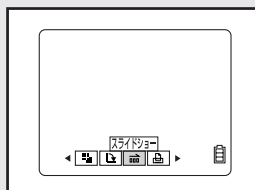
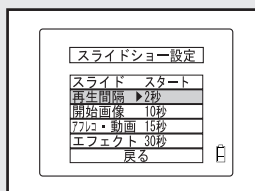
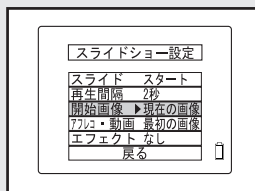
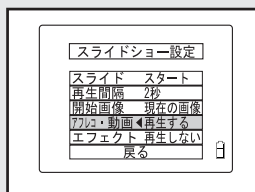
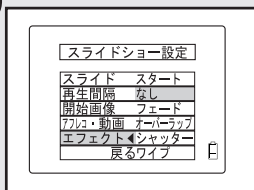
7

“ ”を“▲”または“▼”に倒して［アフレコ・動画］を選び“ ”を“▶”に倒します。

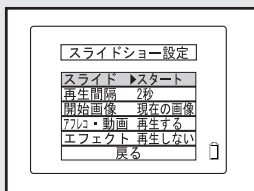
8 “ ”を“▲”または“▼”に倒して［再生する］または［再生しない］を選び“ ”を押します。

10

スライドショー設定
スライド　スタート
再生間隔　なし
開始画像　フェード
ｱﾌﾚｺ・動画　オーバーラップ
エフェクト◀シャッター
戻るワイプ

11

9 “◢” を “▲” または “▼” に倒して［エフェクト］を選び “◢” を “▶” に倒します。

10 “◢”を“▲”または“▼”に倒して希望のエフェクト内容を選び “◢” を押します。

エフェクト内容は下記枠内をご覧ください。

11 “◢”を“▲”に倒して［スライド］を選び“◢”を “▶” に倒すと設定した内容でスライドショーが始まります。

12 スライドショーを終わらせるときは “MENU”（メニュー）ボタンを押します。

エフェクトの内容

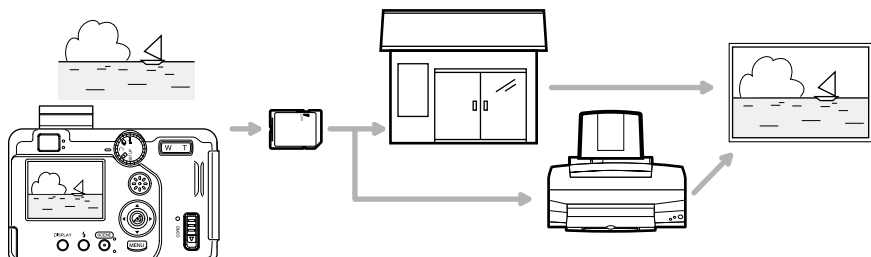
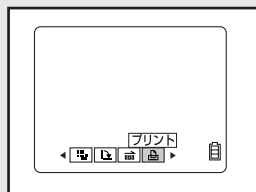
なし：	下記の効果を行いません。
フェード：	再生中の画像が徐々に暗くなります。次の画像が徐々に明るくなり表示されます。
オーバラップ：	再生中の画像に次の画像が重なりあって入れ替わります。
シャッター：	黒い幕が上下から閉じて再生中の画像が消えます。その後黒い幕が上下に開き次の画像が表示されます。
ワイプ：	再生中の画像を左側から拭き取るように次の画像が入れ替わります。

11. [プリント] DPOFでプリントの設定をする

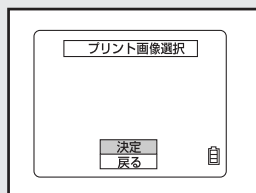
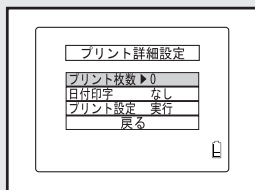
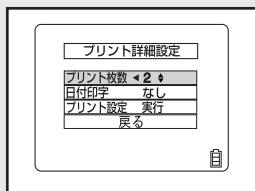
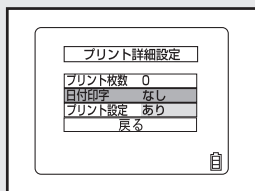
DPOFとは、デジタルカメラで撮影した画像を家庭用プリンタやプリント取扱店でプリントするための規格です。
プリントする枚数の指定や日付の印字指定などの簡単な設定ができます。ご使用のプリンタ、プリント取扱店が DPOF サービスに対応しているかご確認ください。この機能については、お使いの DPOF 対応プリンターの取扱説明書も合わせてお読みください。

2

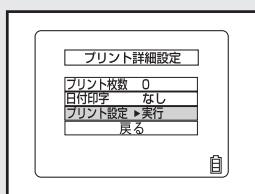
3

4

1 モードダイヤルを “▶” にし、カメラの電源を ON にします。

2 “MENU”ボタンを押すとメニュー項目が表示されます。“◢”（選択レバー）を “◀” または “▶” に倒して “🖶”（プリント）を選び “◢” を押します。
［プリント設定］画面になります。

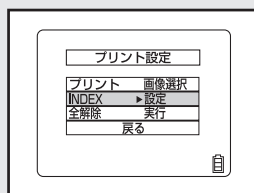
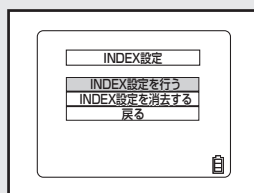
3 “◢” を “▲” または “▼” に倒して［プリント］を選び “◢” を “▶” に倒します。
［プリント画像選択］画面になります。

4 “◢” を “◀” または “▶” に倒し画像を選びます。そして “◢” を “▲” に倒して［決定］を選んで “◢” を押します。
［プリント詳細設定］画面になります。

5
6
8
9
5 “◢▌” を “▲” または “▼” に倒して［プリント枚数］を選び、“◢▌” を “▶” に倒します。

6 “◢▌” を “▲” または “▼” に倒して枚数を決め、“◢▌” を押します。

7 “◢▌” を “▲” または “▼” に倒して［日付印字］を選び、“◢▌” を “▶” に倒します。

8 “◢▌” を “▲” または “▼” に倒して［あり］または［なし］を選び “◢▌” を押します。

●セットアップで［日付写し込み］を［あり］に設定して撮影した画像は、［日付印字］を［なし］に設定してください。［日付印字］を［あり］にすると2ヶ所に日付が表示されます。

9 “◢▌” を “▲” または “▼” に倒して［プリント設定］を選び、“◢▌” を “▶” に倒すとDPOF設定は完了です。

［プリント設定］画面に戻ります。

●他の画像のDPOF設定を続ける場合は、3～9の操作を繰り替えします。

3

4

〈インデックスプリントの設定〉

メモリーカードに記録されている画像の一覧をプリントします。

DPOF の設定のしかた（P68）の 2 までと同じ操作です。

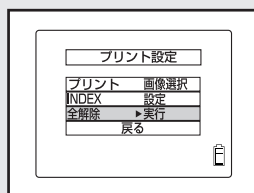
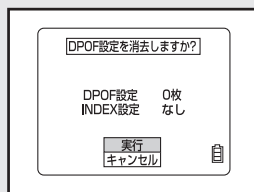
3 **“⏎” を “▲” または “▼” に倒して［INDEX］を選び、“⏎” を “▶” に倒します。**

［INDEX 設定］画面になります。

4 **“⏎” を “▲” または “▼” に倒して［INDEX 設定を行う］を選び “⏎” を押すと、設定完了です。**

［プリント設定］画面に戻ります。

●インデックス設定後に撮影した画像はインデックス設定されていません。再度インデックス設定を行ってください。

3

4

〈プリント設定を全て解除する〉

DPOF の設定のしかた（P68）の 2 までと同じ操作です。

3 **“⏎” を “▲” または “▼” に倒して［全解除］を選び、“⏎” を “▶” に倒します。**

［DPOF 設定を消去しますか？］の画面になります。

4 **“⏎” を “▲” に倒して［実行］を選び “⏎” を押すと、設定完了です。**

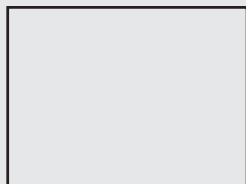
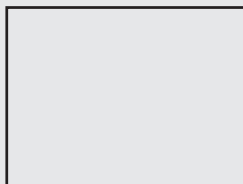
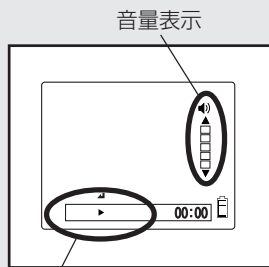
［プリント設定］画面に戻ります。

再生と消去

動画の再生と消去

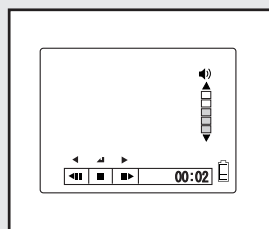
動画再生時の画面表示は各画素数により次のようになります

1. 動画の再生

1

長時間使用する場合は、ACアダプターをつないでご使用ください。

●撮影済みのメモリーカードが入っていることをご確認ください。

1 モードダイヤルを“▶”にし、カメラの電源をONにします。

動画再生は図のような画面になります。

2 “ ”（選択レバー）を“◀”または“▶”に倒し再生する画像を選びます。

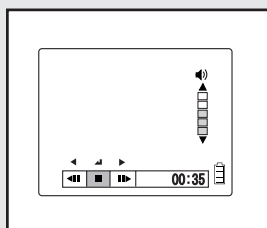
●記録画像が多い場合は、選択に便利なマルチ表示（P57）をご利用ください。

3

3 “ ”を押すと再生がスタートし、図のような再生中画面になります。

再生中に“ ”を“◀”または“▶”に倒すと倒すごとにコマ送りまたはコマ戻しを行います。また2秒以上倒し続けると倒している間、連続コマ送りまたは連続コマ戻しになります。
再生中に“ ”を“▲”または“▼”に倒して再生音量を調整してください。

●コマ送り、コマ戻しを行った場合、“ ”を押すと動画再生を開始します。
●コマ送り、コマ戻し中は、音声は出ません。
●操作ボタン及び音量表示を消すことができます。“DISPLAY”（ディスプレイ）ボタンを押すと液晶モニター表示が切り替わります。
操作ボタン及び音量表示→画像のみ→インフォメーション表示

4

4 “ ”を押すと再生を停止します。

“ ”を“◀”または“▶”に倒して次に再生する画像を選びます。

2. その他の機能

動画では次の機能が使えます。また操作方法は静止画と同じですので参照ページをご覧ください。

①撮影時の情報表示（インフォメーション表示）……P56
②マルチ表示（画像の一覧表示）……P57
③［プロテクト］画像の保護……P60
④画像の消去……P61
⑤［スライドショー］画像を連続表示させる……P66

SET UPの
機能と使いかた

1. セットアップメニュー一覧表

このカメラには次の表のように、セットアップ1/3〜3/3までの計16項目の“セットアップメニュー”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（初期設定）にセットしてあります。（この取扱説明書では“初期設定”の状態で説明しています。）
セットアップメニュー設定内容を変更したい場合は「3. セットアップの変更のしかた」（P80）をご覧ください。

〈セットアップ(1/3)〉

項目＼内容	初期設定	変更設定				
AFモード	SAF	CAF				
液晶の明るさ	標準	＋2	＋1	－1	－2	
日付設定	2003.01.01	－－	－－	－－	－－	－－
日付写し込み	なし	あり				
フォーマット	－－					
オートOFF	3分	1分	6分	しない		

〈セットアップ(2/3)〉

項目＼内容	初期設定	変更設定				
モードロック	OFF	ON				
操作音	＋2	OFF	＋1	＋3		
シャッター音	＋2	OFF	＋1	＋3		
選択色変更	イエロー	レッド	パープル	ブルー		
起動画面	KYOCERA画面	ユーザー設定	OFF			
RECレビュー	2秒	4秒	OFF			

〈セットアップ(3/3)〉

項目＼内容	初期設定	変更設定				
言語LANGUAGE	日本語	ENGLISH	FRANÇAIS	DEUTSCH	ESPAÑOL	中文
ビデオ出力	NTSC	PAL				
連番リセット	－－					
設定リセット	－－					

2. セットアップ内容

〈セットアップ（1/3)〉

1.　AF モード

カメラが自動でピントを合わせるときの方式です。

SAF :（シングル・オートフォーカス）（初期設定）通常の撮影に適しています。

シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、ピントが合うとスタンバイ LED（緑）が点灯し、ピントと露出が固定します。そのままシャッターボタンを全押しして撮影してください。

CAF :（コンティニュアス・オートフォーカス）: 動きのある被写体を撮影するのに適しています。

カメラ電源ONの状態で連続的にピントを合わせ続けます。スタンバイLEDの点灯を確認してシャッターボタンを全押ししてください。

●被写体の動きが速い場合オートフォーカスが追随できないことがあります。
●ピント合わせにレンズを駆動していますので、電池の消耗は早くなります。

2. 液晶の明るさ

液晶モニターの明るさを調節します。

5 段階の調節ができます。＋を選ぶと明るく、－を選ぶと暗くなります。

3. 日付設定

日付と時刻を設定します。設定方法は P16 をご覧ください。

4. 日付写し込み

画像に日付を写し込む場合に設定します。設定後に撮影した画像から日付が写し込まれます。（P17 参照）

[あり]： 撮影すると画像の一部として日付が写し込まれます。

●写し込みは画像の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなることがあります。
●一度写し込むと消去はできません。

[なし] :**（初期設定）** 日付は写し込まれません。

5. フォーマット（メモリーカードの初期化）

メモリーカードに記録されている画像やフォルダーを全て（含む音声）削除します。プロテクトしてある画像も消されますので、記録内容を十分確認してから行って下さい。

※本機の性能を充分に発揮するために、フォーマットは本機で行うことをおすすめします。

●“フォーマット”のしかたについては P81 をご覧ください。

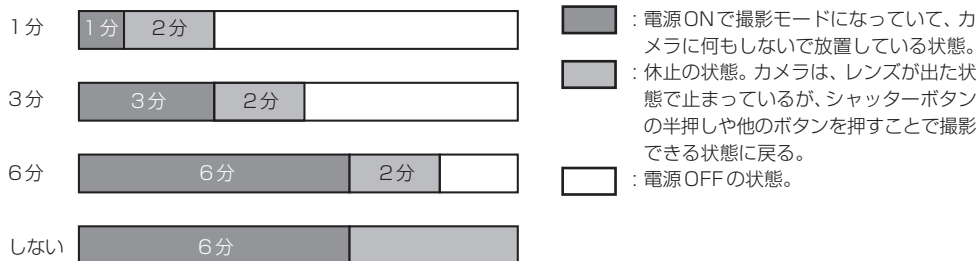
6. オート OFF

カメラ電源を ON したまま何も操作しないで放置しておくと電源が自動的に OFF になるオート OFF 機能を搭載しています。電源の切り忘れを防ぎ電池の消耗を抑えます。

①**しない**　②**1 分**　③**3 分**　④**6 分**から選ぶことができます。

●初期設定は 3 分になっています。①のしないを設定したときは、カメラは休止状態になりますが電源は自動的に OFF になりません。電源の切り忘れにご注意ください。

1分	1分	2分	
3分	3分	2分	
6分	6分	2分	
しない	6分		

（濃いグレー）：電源ONで撮影モードになっていて、カメラに何もしないで放置している状態。
（薄いグレー）：休止の状態。カメラは、レンズが出た状態で止まっているが、シャッターボタンの半押しや他のボタンを押すことで撮影できる状態に戻る。
（白）：電源OFFの状態。

〈セットアップ（2/3）〉

7. モードロック

ストロボモード、シーンモード、撮影メニューで設定した内容を、カメラ電源をOFFにしたときも残しておくことをモードロックといいます。（P101 参照）

［ON］：カメラ電源を OFF にしても設定した内容を残しておきます。
［OFF］：（初期設定）カメラ電源を OFF にすると初期設定に戻ります。

8. 操作音

操作音量を調節することができます。

［＋3］：音量大
［＋2］：　中（初期設定）
［＋1］：　小
［OFF］：操作音を OFF にします。（起動音も OFF になります。）

9. シャッター音

シャッター音量を調節することができます。

［＋3］：音量大
［＋2］：　中（初期設定）
［＋1］：　小
［OFF］：シャッター音を OFF にします。

10. 選択色変更

各モードのメニューやメニュー内容選択するときのカーソルの色を変えることができます。

［イエロー］：（初期設定）
［レッド］
［パープル］
［ブルー］

11. 起動画面

カメラ電源を ON したときの起動画面を次の 3 種類から選ぶことができます。設定方法は P82 をご覧ください。

［京セラロゴの画面］：（初期設定）
［ユーザー設定画面］：メモリーカードに保存されている画像を設定できます。また設定された画像はカメラ本体に記録されます。
［OFF 画面］　　　　：起動時の表示はありません。

12.REC レビュー（レックレビュー）

撮影直後、撮った画像を自動で再生表示させることができます。（静止画撮影のみ）
また、表示時間を選ぶことができます。

［OFF］：撮影後の表示はありません。
［2 秒］：（初期設定）撮影後、画像を 2 秒間表示します。
［4 秒］：撮影後、画像を 4 秒間表示します。

● “ ”（連続撮影）時は撮影中のコマ間の時間になります。最後の撮影画像のみ上記の時間表示します。
●レックレビュー表示はシャッターボタン半押しで終了します。

〈セットアップ（3/3）〉

13. 言語 LANGUAGE

液晶モニターに表示される言語を次の 6 種類から選ぶことができます。

①日本語　② ENGLISH ③ FRANÇAIS ④ DEUTSCH ⑤ ESPAÑOL　⑥中文（簡体字）

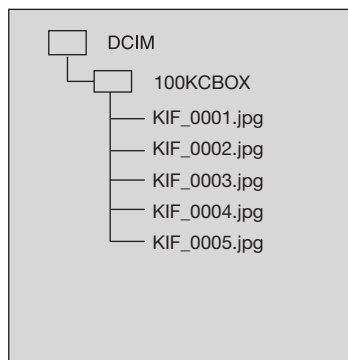
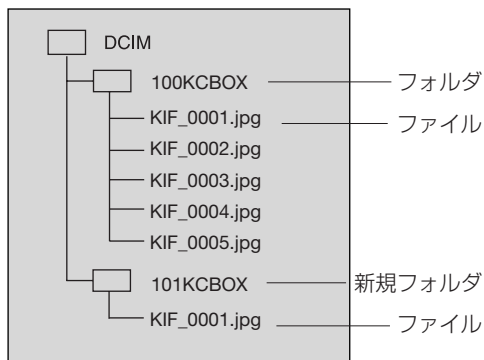
14. ビデオ出力

このカメラのビデオ出力方式は NTSC 方式と PAL 方式が選べます。テレビの送受信方式は国によって異なりますので、旅先でカメラをテレビにつなぐときはその国の方式を設定して下さい。

●日本、アメリカは NTSC 方式です。

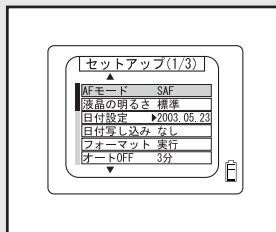
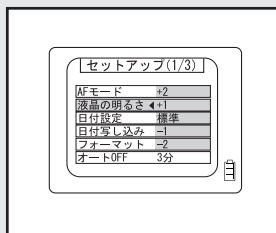
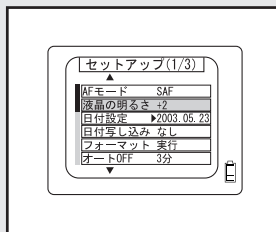
15. 連番リセット

このカメラでは撮影した順に、連続した番号がファイル名に付けられ、それらは「100KCBOX」というフォルダにまとめられます。この連番リセットを実行すると、メモリーカードに新たなフォルダが作られ、画像のファイル名も新たに 0001 から連番が付けられます。
撮影シーンごとにフォルダ名を変えると、画像データの整理に便利です。

●作成できるフォルダは 100KCBOX～999KCBOXです。
●フォルダ番号を100KCBOXに戻したいときは、メモリーカードを装填しないで連番リセットを行ってください。
フォルダ番号は 100KCBOX、ファイル番号はKIF_0001.jpg に設定されます。

連番リセット前

連番リセット後

16. 設定リセット

日付、ビデオ出力、言語を除くカメラの各種の設定（カメラモード、セットアップモード）を初期設定に戻します。（詳細は P101 をご覧ください。）

例；[液晶の明るさ] を“＋2”に変更します。

1

1 モードダイヤルを“SETUP”にして、カメラの電源をON にします。

液晶モニターに“セットアップ（1/3）”のメニュー項目が表示されます。
“セットアップ”は 1/3 ～ 3/3 の画面があります。“”（選択レバー）を“▲”または“▼”に数回倒すと画面が変わります。

2

2 “”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して“液晶の明るさ”を選び“”を“▶”に倒します。

液晶の明るさの“内容”が表示されます。

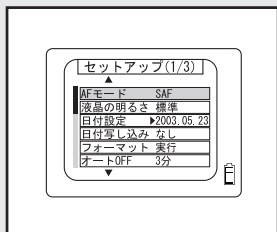
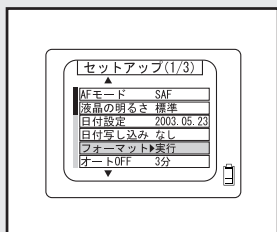
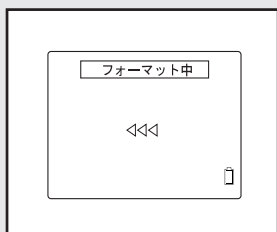
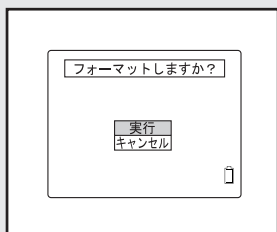
3

3 “”を“▲”または“▼”に倒し“＋2”を選び“”を押します。

1 の表示に戻り設定完了です。

- [日付設定] は P16 をご覧ください。
- [起動画面] は P82 をご覧ください。
- [フォーマット] は P81 をご覧ください。

4. “フォーマット” メモリーカードの初期化

1

2

3

新しいメモリーカードを使う前や、画像を含む全てのデータを消してしまいたい時にご使用ください。

※本機の性能を十分に発揮するために、フォーマットは本機で行うことをおすすめします。

●メモリーカードに記録されている画像やフォルダーを全て（含む音声）削除します。プロテクトしてある画像も消されますので、記録内容を十分確認してから行って下さい。

1 モードダイヤルを “SETUP” にして、カメラの電源を ON にします。

液晶モニターに “セットアップ（1/3）” のメニュー項目が表示されます。

2 “◢” （選択レバー）を “▲” または “▼” に倒して “フォーマット” を選び “◢” を “▶” に倒します。

［フォーマットしますか？］が表示されます。

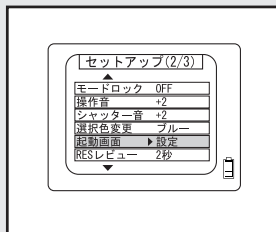
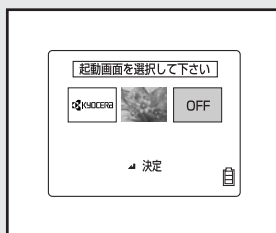
3 “◢” を “▲” に倒し “実行” を選び “◢” を押すと、フォーマットを始めます。

4 フォーマットが完了すると 2 の最初の画面に戻ります。

セットアップ

5. “起動画面” の設定

2

3

カメラ電源をONしたときの起動画面を次の3種類から選ぶことができます。

①京セラロゴの画面 ：(初期設定)
②ユーザー設定画面 ：メモリーカードに保存されている画像を起動画面に設定できます。
③ OFF画面 ：起動画面を表示しません。

1 モードダイヤルを“SETUP”にして、カメラの電源をONにします。

液晶モニターに“セットアップ（1/3）”のメニュー項目が表示されます。

2 “◢”（選択レバー）を“▲”または“▼”に倒して“起動画面”を選び“◢”を“▶”に倒します。

［起動画面を選択して下さい］が表示されます。

3 “◢”を“◀”または“▶”に倒して希望の画面を選び“◢”を押すと設定完了です。

4

5

〈メモリーカードの画像を設定する場合〉

4 上記の3で中央の画像を選び“◢”を“▼”に倒します。

[画像を選択してください]の表示がでてメモリーカード内の画像が表示されます。

5 “◢”を“◀”または“▶”に倒して希望の画像を選び“◢”を押します。

［設定しますか？］の画面になります。

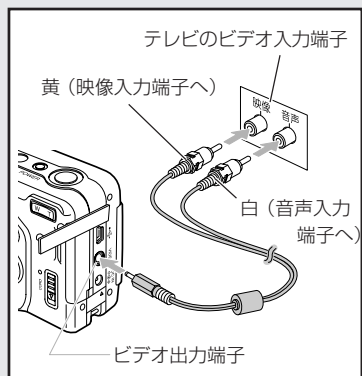
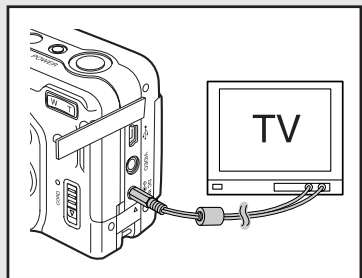
6 “◢”を“▲”に倒して［設定］を選び“◢”を押します。

上記2の画面に戻り設定完了です。

●設定した画像はカメラ本体に記録されます。
●4項でリセットを選ぶと現在設定されているユーザー設定画面を削除できます。

他の機器への接続

1. テレビで画像を見る

1

2

旅先やご自宅のテレビで撮影した画像を見ることができます。

1 付属のビデオケーブルでカメラとテレビをつなぎます。

●カメラとテレビの電源は、OFFにしてから接続してください。
●長時間お使いになるときは、ACアダプターをカメラにつないでください。

2 テレビとカメラの電源をONにして、カメラのモードダイヤルを“▶”にするとテレビに再生画像が表れます。

この状態で撮影や再生、SETUPの機能が使用できます。

●テレビは、ビデオケーブルを接続したビデオ入力モードにしてください。
●ビデオケーブル接続中は、カメラ液晶モニター表示はOFFになります。
●テレビで画像を見る場合、表示が欠ける場合があります。

このカメラのビデオ出力方式はNTSC方式とPAL方式が選べます。テレビの送受信方式は国によって異なりますので、旅先でカメラをテレビにつなぐときはその国の方式を設定してください。設定方法はP75をご覧ください。

2.パソコンにつなぐ

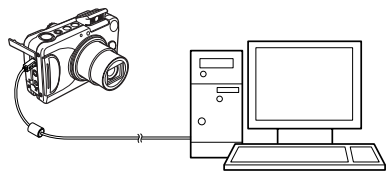
カメラとパソコンをつないで、撮った画像をパソコンで見たり、コピーして加工したり、Eメールで送ることができます。
まずはお使いのパソコンの環境やOSをご確認ください。

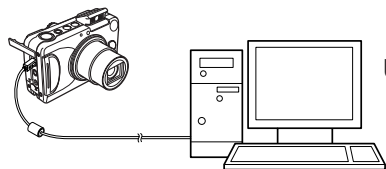
<1.パソコンの使用環境と接続手順>

●Mac OS 8.6には対応しておりません。

※ 下記以外のOSまたは、下記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

Windows Me/2000/XP*1、Mac OS 9.0～9.2/10.0～10.2*2がプレインストールされているパソコンをお使いの場合

*1 Windows2000はProfessional、Windows XPはHomeEditionおよびProfessionalに限ります。
*2 Mac OSはXサーバーを除きます。

カメラとパソコンをつなぎます。
● USBドライバのインストールは必要ありません。

Windows 98/98SEがプレインストールされているパソコンをお使いの場合

●Windows 98、Windows 98SEの場合は、USBドライバのインストールが必要です。USBドライバはカメラに付属しているCD-ROMに収録されています。

ご注意

USBケーブルは、USBドライバのインストールが完了してから接続してください。先にUSBケーブルを接続するとUSBドライバが正しくインストールできません。接続してしまった場合は96ページの「デバイスの削除と対処法」をご覧ください。

また、どのパソコンにもこちらの装備が必要です。

● USB端子が標準で装備されていること。（カメラとつなぐときに必要です。）
● CD-ROMドライブが装備されていること。（インストール時に必要です。）（Windows 98/98SE）

＜2.USB ドライバをインストールする＞

USB ドライバはカメラに付属している CD-ROM (CD-42) に収録されています。

1 パソコンの電源を入れてパソコンを起動します。
2 付属の CD-ROM (CD-42)をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

Windows 98/98SE をお使いの場合

1［マイコンピュータ］から［Cd_42（D:)］のフォルダをダブルクリックして開いてください。

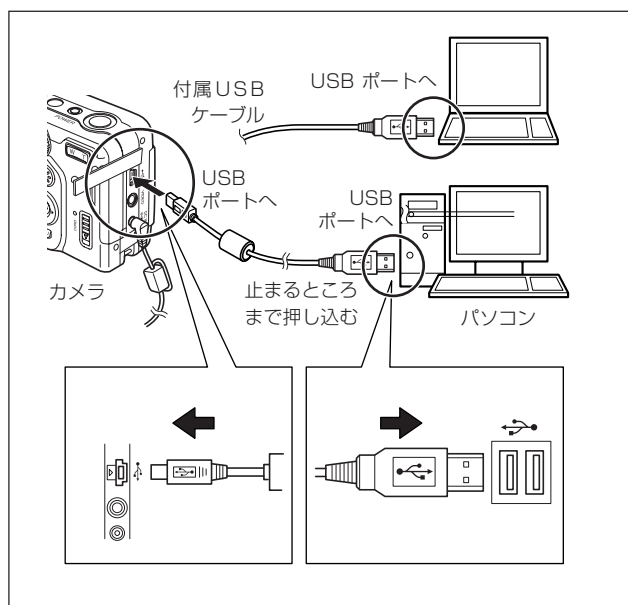
● (D:) はパソコンによって違うアルファベットが入ります。

2［ Setup (.exe)］のファイルをダブルクリックすると、インストールが始まります。ガイドに従ってインストールを行ってください。

3「InstallShieldウイザードを完了しました」のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックし、ウイザードを終了してください。その後パソコンを再起動してインストール完了です。

ご注意

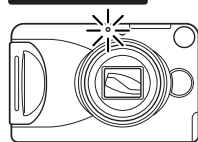
インストールに失敗した場合は、96ページの「デバイスの削除と対処法」の手順に従ってデバイスを削除してください。

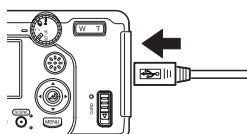
<3.USBケーブルをパソコンに接続する>

1. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。

● USB端子の大きさをご確認ください。カメラ側のUSB端子は小さい方、パソコン側は大きい方です。

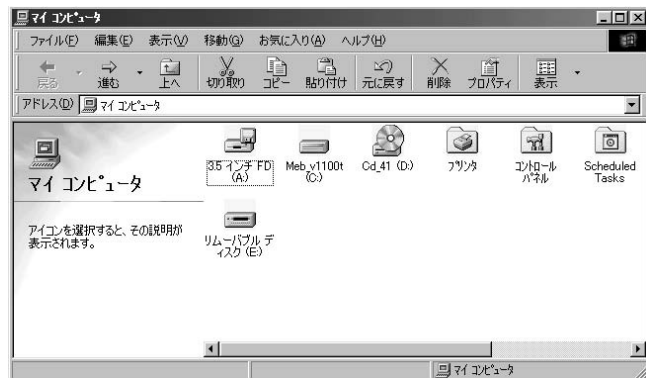
2. カメラの電源をONにして、次の内容を確認できましたら接続完了です。

接続後のカメラの状態

液晶モニターに[PC モード]が表示されます。

セルフタイマーLEDが点灯します。

ご注意

カメラの液晶モニターに[PCモード]が表示されていても、パソコンに［リムーバブルディスク］や［名称未設定］のアイコンが表示されない場合は、USBケーブルが確実に接続されているか、あるいはカメラにメモリーカードが入っているかをご確認ください。

接続後のパソコンの状態

Windows の場合： [マイコンピュータ] に新しい [リムーバブルディスク] のアイコンが表示されます。

● 表示される（　）内のアルファベットはお使いのパソコンの環境により異なります。
● Windows XPの場合は、こちらのウィンドウが表示されます。（メモリーカードに画像が記録されているとき）

Macintosh の場合：デスクトップに [名称未設定] のアイコンが表示されます。（メモリーカードが入っているとき）

●OS10.0～10.2の場合 [NO_NAME] と表示されます。

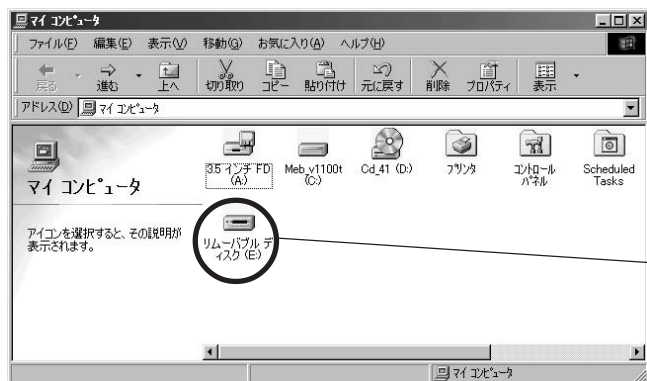
名称未設定

<4. パソコンで画像を見る>

● パソコンに画像を見るためのソフトウェアがインストールされていること。（動画の再生にはQuickTime4.1以上のインストールが必要です。）

●大きな画素数、フレーム／秒で記録した動画は一度PCにコピーして、コピーした画像を再生してください。カメラに装着したメモリーカードの動画をＰＣで再生すると、データ転送速度が間に合わずスムーズな再生が出来ない場合があります。

Windowsをお使いの場合

1 ［マイコンピュータ］に新しい［リムーバブルディスク］のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。

こちらをダブルクリックします。

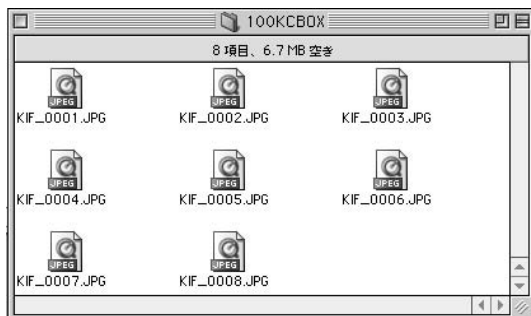
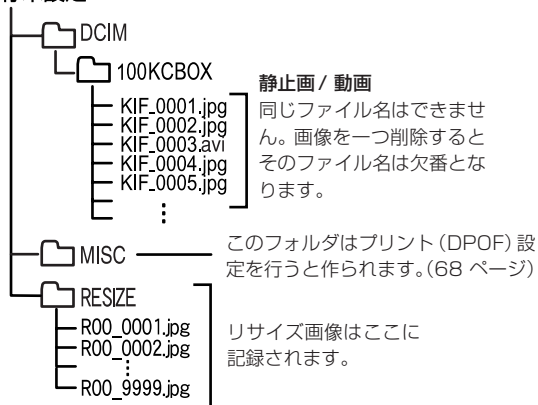
● 表示される（　）内のアルファベットはお使いのパソコンの環境により異なります。

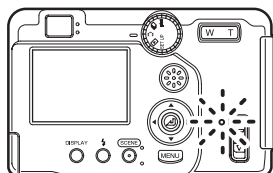
● Windows XPの場合は、こちらのウィンドウが表示されます。

2 フォルダ［DCIM］内の［100KCBOX］もしくは、［RESIZE］を開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

● フォルダ［100KCBOX］の100には、100～999の数字が入ります。→連番リセット79ページ

Macintoshをお使いの場合

1 デスクトップに[名称未設定]のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。

2 フォルダ[DCIM]内の[100KCBOX]もしくは、[RESIZE]を開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

● フォルダ[100KCBOX]の100には、100～999の数字が入ります。→連番リセット79ページ

メモリーカード内のデータにアクセスしているとき(コピーなど)は、カードアクセスLEDが点滅します。

● このときUSBケーブルを抜いたり、パソコンやカメラの電源を切らないでください。画像データが破損する恐れがあります。

接続

ご注意

●パソコンで画像を開き、“回転”などの操作を行うと、その画像はカメラで再生できなくなります。
画像に回転などの加工をするときは、必ずパソコンにコピーしてから加工してください。
●接続中は、カメラの電池も消費します。接続時の操作は、コピーだけにするなど、接続時間は短くなるように心がけましょう。
※ 長時間お使いになる場合はACアダプターをご使用ください。

<5.USB ケーブルの取り外しについて>

パソコンから USB ケーブルを取り外すときは以下の方法で取り外してください。

Windows Me をお使いの場合

1 デスクトップの右下にある「タスクバー」の［ハードウエアの取り外し］アイコンをダブルクリックします。
2 ［USB ディスク］を選択して［停止］をクリックします。
3 ［Kyocera Finecam S5R E：］* を選択して［OK］をクリックします。
● ［Kyocera Finecam S5R E：］が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので、［キャンセル］をクリックして 2 に戻り、別の［USB ディスク］を選択してください。
* ［Kyocera Finecam S5R E：］はパソコンにより違うアルファベットになります。
4 メッセージが表示されるので［OK］をクリックします
5 カメラの電源を切り USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外します。

Windows 2000 をお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の［ハードウエアの取り外し］アイコンをダブルクリックします。
2 ［USB 大容量記憶装置デバイス］を選択して［停止］をクリックします。
3 ［Kyocera Finecam S5R USB device］を選択して［OK］をクリックします。
● ［Kyocera Finecam S5R USB device］が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので［キャンセル］をクリックして 2 に戻り、別の［USB 大容量記憶装置デバイス］を選択してください。
4 ［'USB 大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます］とメッセージが表示されるので［OK］をクリックします。
5 カメラの電源を切り USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外します。

Windows 98/98SE をお使いの場合

カメラの電源を切りそのまま USB ケーブルを取り外してください。

Windows XP をお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の［ハードウエアの安全な取り外し］アイコンをダブルクリックします。
2 ［USB 大容量記憶装置デバイス］を選択して［停止］をクリックします。
3 ［Kyocera Finecam S5R USB device］を選択して［OK］をクリックします。
 ●［Kyocera Finecam S5R USB device］が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので［キャンセル］をクリックして2に戻り、別の［USB大容量記憶装置デバイス］を選択してください。
4 デスクトップ右下にある「タスクバー」の［ハードウエアの取り外し］アイコンに［'USB大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます。］とポップアップメニューが表示されるので、［ハードウエアの安全な取り外し］ダイアログの［閉じる］をクリックします。
5 カメラの電源を切り USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外します。

Mac OS をお使いの場合

デスクトップ上の［名称未設定］のフォルダをドラッグしてゴミ箱に入れてください。［安全に取り外すことができます］などのメッセージが表示されているか、「名称未設定」などのアイコンがディスプレイ上から消えていることを確認してから USB ケーブルを取り外してください。

パソコンとカメラをつないだときのご注意

● パソコンがサスペンド･レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。
● 画像に加工を加える場合は（たとえばサイズを変更したり回転する場合）、加工前にパソコンにコピーをとり、オリジナルの画像ファイルに加工を加えないようご注意下さい。
メモリーカードのデータに直接加工を加えると、カメラで画像を見ることができなくなります。
● **パソコンからメモリーカードをフォーマットしないでください。カメラで使用できなくなるおそれがあります。**
● メモリーカードの画像データを削除またはPC上に直接移動しないでください。メモリーカードの画像データの消去はカメラから行ってください。

<6.デバイスの削除と対処法＞

ドライバソフトが正常にインストールされていないと、パソコンがカメラを認識できません。その場合は、次の手順に従って一度デバイスを削除してください。その後、取扱説明書に記載されている手順に従って、再度ドライバをインストールしてください。

Windows 98、Windows 98SEをお使いの場合

1. パソコンの電源を入れ、Windows を起動します。
2. 付属の USB ケーブルで、カメラの USB 端子とパソコンの USB 端子をつなぎます。
3. カメラにメモリーカードを挿入し、AC アダプターをつないでカメラの電源を ON にします。
4. パソコンの［デバイスマネージャ］を開きます。
   ①［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選びます。
   ②システムのプロパティが表示されたら、［デバイスマネージャ］のタブをクリックします。
5. ［その他のデバイス］を選択し、“？”マークのついた［不明なデバイス］の［削除］をクリックします。
6. デバイス削除の確認画面が出たら、［OK］をクリックします。
7. カメラの電源をOFFにしてからUSBケーブルを取り外し、パソコンを再起動をして作業完了です。

＜7. ドライバソフトが不要になった場合＞

ドライバソフトが不要になった場合は、下記に手順でドライバをアンインストールしてください。

Windows 98、Windows 98SEをお使いの場合

1. ［マイコンピュータ］をダブルクリックします。
2. ［コントロールパネル］をダブルクリックします。
3. ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックし、［Digital Camera USB Device3］を選択します。
4. 「追加と削除」をクリックすると「この製品をアンインストールしますか？」を表示されますので「はい（Y)」をクリックしてください。これでドライバソフトは削除されます。

その他

1.「故障かな？」とお考えになる前に

「故障かな？」と思われても、修理に出す前にもう一度次の表で原因と対策をご確認ください。

現象	原因	対策	参照頁
液晶モニターになにもでてこない。	電池切れか、リチウムイオンバッテリーパックが入っていません。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れて充電してください。	14
	オート OFF 機能で電源が OFF になりました。	再度“POWER”ボタンを押して ON にしてください。	–
液晶モニターが消えている。	カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。	シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。“オート OFF”で設定した内容によって異なりますので、詳しくは 76 ページをご覧ください。	76
	カメラにビデオケーブルがつながっています。	ビデオケーブルをはずします。	84
	液晶モニターが OFF になっています。	“DISPLAY”ボタンを押して液晶モニターを ON にします。	21
	テレビもしくはカメラの近くに磁石等、磁気を発生するものがあります。	カメラを磁気を発生するものから遠ざけてください。	―
撮影したのに撮影可能枚数が変わらない。	撮影した画像の容量が少なかったためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。	―
テレビに映らない。	ビデオ出力方式がテレビと合っていません。	ビデオ出力方式をテレビに合わせてください。	78
画像が消去できない。“ ”表示	画像がプロテクトされています。	プロテクトを解除してください。	60
画像が消去できない。	他の機器で記録したデータが入っています。	このカメラでは消去できません。「フォーマット」を利用すると消去できますが、全画面が消去されます。	81
画像を消去したのに撮影可能枚数が増えない。	消去した画像の容量が少なかったためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、特に問題ありません。	―

現象	原因	対策	参照頁
充電ができない。	リチウムイオンバッテリーパックが入っていません。	リチウムイオンバッテリーパックをカメラに入れてください。	14
	リチウムイオンバッテリーパックの＋－の向きが逆になっています。	リチウムイオンバッテリーパックを正しく入れ直してください。	14
	AC アダプターが正しくつながっていません。	カメラやコンセントにしっかり差し直してください。	―
充電ができない。または、中断してしまう。警告 LED 遅い点滅。	周囲の温度が高すぎるまたは低すぎるため、充電保護回路が働いて充電を停止しました。	周囲の温度が＋ 10 ℃～ 30 ℃の範囲で充電してください。（実際は＋ 5 ℃～ 40 ℃でも可能ですが充電時間が多少遅くなります。）	―
カメラが熱くなる。	液晶モニター使用時は大電流が流れるため長時間使用すると熱くなります。	故障ではありませんが、しばらく休止してからお使いください。	―
警告 LED 遅い点滅。	ストロボ充電中です。	一旦シャッターボタンから指を離してお待ちください。	12
警告 LED 速い点滅。	カメラ振れ警告。シャッタースピードが遅くなります。	三脚等でカメラを固定して撮影してください。	12
ピントが合わない。スタンバイ LED 点滅。合焦マーク点滅。	ピントが合いづらい被写体を撮影しています。	フォーカスロックを使って被写体のコントラストの強いところにピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。	28
画像の回転、DPOF 設定、プロテクトができない。	SD メモリーカードのライトプロテクトがロック（書込み禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除してください。	15

メッセージとその対策

メッセージ	原因	対策	参照頁
“カードが一杯です”	メモリーカードの記憶容量が不足しています。	新しいメモリーカードを入れるか、不要な画像を消去してください。または、画素数や画質を変えると撮影できる場合もあります。	61
“カードがありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。	15
“ライトプロテクト”	SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチがロック（書込み禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除するか他のメモリーカードをご使用ください。	15
“カードエラーです” または “未対応フォーマット”	他の機種でフォーマットされたメモリーカードを使っています。	カメラでメモリーカードのフォーマットをしてください。	81
	このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のメモリーカードです。	別のメモリーカードを入れるかフォーマットをしてください。	81
	カードが正しく装着されていません。	メモリーカードを装着し直してください。	15
リサイズ時 “ファイル番号エラー”	リサイズフォルダの記録可能番号をオーバーしています。	リサイズ全消去 メモリーカードのフォーマットを行ってください。また残しておきたい画像やリサイズ画像は PC にコピーしてください。	64
“画像がありません”	メモリーカードに何も記録されていません。	撮影済みのメモリーカードを入れてください。	—
“再生できません”	ファイル形式が違う画像ファイルがメモリーカードに記録されています。	別のメモリーカードを入れるかフォーマットをしてください。	81
“カバーが開いています”	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉じてください。	15
“LOW BATTERY”	バッテリー残量がありません。	バッテリーパックを充電するか、AC アダプターをご使用ください。	14
“⚠⚡閉じています。”	ストロボが閉じています。	ストロボを指で押さえつけていないか確認してください。	—

2. モードや機能の設定状況

撮影モード時、カメラ電源 OFF のときと設定リセットしたときの、メニュー設定状況です。

撮影モード	メニュー	カメラ電源 OFF	設定リセット(初期設定)
📷	ストロボモード	モードロック可	AUTO
❐	ストロボモード	モードロック可	発光禁止
📷、❐、🎥	シーンモード	モードロック可	標準モード
📷、❐、🎥	セルフタイマー	初期設定(OFF)	OFF
📷、❐	画素数	設定保持	2560 × 1920
🎥	画素数	設定保持	320 × 240
📷、❐	画質	設定保持	ノーマル
🎥	fps(フレーム／秒)	設定保持	30 フレーム／秒
📷、❐、🎥	露出補正	モードロック可	± 0
📷、❐、🎥	ホワイトバランス	モードロック可	AUTO
📷、❐、🎥	詳細→カラーモード	初期設定(カラー)	カラー
🎥	詳細→音声	設定保持	あり
📷、❐	詳細→彩度	設定保持	標準
📷、❐	詳細→シャープネス	設定保持	標準
📷、❐、🎥	詳細→ WB プリセット	設定保持	リセットしない
📷、❐	詳細→ AE モード	設定保持	プログラム
📷、❐、🎥	詳細→フォーカス	設定保持	スポット AF
📷、❐	詳細→長時間露光	初期設定(OFF)	OFF
📷、❐	詳細→ ISO	設定保持	AUTO
📷、❐	詳細→測光モード	設定保持	評価測光
📷、❐、🎥	詳細→電子ズーム	設定保持	ON
“セットアップ 1/3～3/3”	AF モード	設定保持	SAF
	液晶の明るさ	設定保持	標準
	日付設定	設定保持	リセットしない
	日付写し込み	設定保持	なし
	フォーマット	ー	ー
	オート OFF	設定保持	3 分
	モードロック	設定保持	OFF
	操作音量	設定保持	＋ 2
	シャッター音量	設定保持	＋ 2
	選択色変更	設定保持	イエロー
	起動画面	設定保持	KYOCERA 画面
	REC レビュー	設定保持	2 秒
	言語 LANGUAGE	設定保持	リセットしない
	ビデオ出力	設定保持	リセットしない
	連番リセット	ー	ー
	設定リセット	ー	ー

モードロック可：通常はカメラ電源を OFF にすると設定項目が初期設定に戻りますが、セットアップのモードロックを ON に設定するとカメラ電源を OFF にしても設定を保持します。

3. 主な仕様

型式： 記録再生消去一体型デジタルスチルカメラ

記録媒体： SDメモリーカード、マルチメディアカード

フォーマット： JPEG準拠＊（注1）（Exif ver2.2)、DCF準拠（Design rule for Camera File system）対応、DPOF対応＊（注2）

有効画素数： 500万画素

撮影素子： 1/1.8インチ正方画素原色フィルターインターレース読み出し方式CCD
（総画素数525万画素）

記録画素数（静止画）： 2560×1920、1600×1200、1280×960、640×480

記録画素数（動画）： 640×480、320×240、160×120

画質： F（ファイン）、N（ノーマル）の2段階

動画フレームレート： 15フレーム／秒、30フレーム／秒

レンズ： KYOCERAズームレンズ（6群7枚）、f=7.3mm〜21.9mm(35mm判カメラ換算、約35mm〜105mm相当) 3倍ズームレンズ、F2.8〜4.8

電子ズーム： 電子ズーム設定可能（×1.3、×1.6、×2、×3、×4の5段階）

焦点調節： ビデオフィードバック式オートフォーカス、（ワイドAF／スポットAF切替可）およびマニュアルフォーカス設定可

撮影距離範囲： AF：CCD面より約0.6m〜∞、マクロ撮影時約17cm〜60cm
＊レンズ前面より（テレ、ワイド時）約0.55m〜∞、マクロ撮影時約12cm〜55cm
MF：0.6、1、(1.5)、(2)、3、5、∞

露出制御：

- **制御方式：** プログラムAE、絞り優先AEモード［F2.8(ワイド時)、F9.6の2ステップ選択可能］
- **測光方式：** 評価測光、中央部重点測光、スポット測光の3モード選択可能
- **測光連動範囲：** LV6〜LV16
- **露出補正：** ＋2.0EV〜－2.0EV（1/3ステップ）

シャッター： CCD電子シャッター、絞り羽根独立電子式シャッター併用方式（1秒〜1/2000秒　長時間モードで2秒、4秒、8秒選択可）

ISO感度： オート、100、200、400、800

ホワイトバランス： オート、太陽光、白熱電球、曇天、蛍光灯、プリセット

シャープネス： ＋3〜－1（5段階）

彩度： ＋、標準、－（3段階）

光学ファインダー： 実像式ズームファインダー

ストロボ： 内蔵、ポップアップ式
撮影距離　（P30参照）

シーンモード： ①標準モード　②スポーツモード　③夜景モード　④夜景ポートレートモード　⑤マクロモード　⑥遠景モード

ストロボモード： ①自動発光　②赤目軽減自動発光　③強制発光　④発光禁止

動画記録モード： ファイル型式：AVI　音声有無選択可

動画記録時間： メモリーカード容量一杯まで
PCでの再生環境：QuickTime4.1以上（Windows、Macintosh）

連続撮影： 約3コマ／秒　20枚まで（2560×1920、光学ズーム使用、画質；ファイン時）

静止画アフレコ： 1画面につき30秒まで録音、再生可能

液晶モニター： 1.6型7万画素デュアルバックライト方式採用TFDカラー液晶モニター
液晶明るさ調整可能

再生モード： マルチ表示（6画面表示）、シングル表示、アフレコ（静止画への音声メモ）、プロテクト、消去、全消去、リサイズ、回転、スライドショー、DPOF設定、クローズアップ再生、サムネイル再生、動画再生（本機で撮影した画像のみ）、インフォメーション表示

リサイズ：　320×240、または160×120へのリサイズ可能
リサイズするエリア選択可。ファイル形式：jpg

消去：　1画像消去、全画像消去

セットアップ内容：　AFモード、液晶の明るさ、日付設定、日付写し込み、フォーマット、オートOFF、モードロック、操作音、シャッター音、選択色変更、起動画面、RECレビュー、言語LANGUAGE、ビデオ出力、連番リセット、設定リセット

ビデオ出力：　NTSC/PALコンポジットビデオ信号切替方式、音声出力

入出力端子：　ビデオ出力端子（φ3.5ミニジャック）、外部電源入力端子、USB端子

電源：　3.6Vリチウムイオンバッテリーパック、専用ACアダプターにて使用可能

充電時間：　約5時間（フル充電、+10℃〜+30℃）

電池寿命：　撮影画像枚数（ストロボ50%使用、2560×1920ノーマル時）
液晶モニターON時　約130画像
液晶モニターOFF時　約160画像
（いずれもフル充電時、常温、付属のバッテリーパック使用、当社測定基準による）

動作温度：　0℃〜45℃

寸法：　92（幅）×57.5（高さ）×33（奥行き）mm（突起部含まず）

質量：　約180g（メモリーカード、バッテリー別）

（注1）　DCFとは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを、関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として規定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

（注2）　DPOFとは、キャノン株式会社、コダック株式会社、富士写真フィルム株式会社、松下電器産業株式会社の4社で制定したデジタルプリントオーダーフォーマット。デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などの指定情報を記録媒体に記録するための規格で「Digital Print Order Format」の略称です。

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

索　引

英数字

ACアダプター......2
AEモード......38
AF（オートフォーカス）......39
AFモード（セットアップ）......76
CD ROM......86
DCIM(Digital Camera IMages)......90
DISPLAYボタン......21
DCF......103
DPOF......68,103
ISO......39
MENU（メニュー）ボタン......22
MF（マニュアルフォーカス）......39,42
NTSC（ビデオ出力）......78,84
PAL（ビデオ出力）......78,84
POWERボタン......19
RECレビュー......78
SCENE（シーン）ボタン......22,31
SDメモリーカード......15
USBケーブル......88
USBドライバ......86
WB（ホワイトバランス）......37,49
WBプリセット......38,41,50
Windows......85
1コマ撮影......25
1画像消去......61

あ行

赤目現象......29
アフレコ......58
インデックスプリント......70
インフォメーション表示......56
液晶モニター表示......11
液晶モニターの明るさ調節......11,76
エフェクト（効果）......67
遠景モード......32,45
オートOFF......76
オーバラップ（エフェクト）......67
音声モード......50
音声再生......59
音声消去......59

か行

回転......65
拡大表示→クローズアップ......55
画質......35
画像エリア......62
画像の消去......61
画素数......35,47
カードアクセスLED......12
カメラぶれ......17
カラーモード......38,40,50
起動画面......78,82
クローズアップ......55
警告LED......12
言語LANGUAGE......78
光学ズーム......20
光学ファインダー......23
コマ送り／コマ戻し......72
合焦マーク......11

さ行

彩度......38
撮影可能枚数......11
撮影可能時間......11
シャープネス......38
シャッターボタン......19
シャッター（エフェクト）......67
シャッター音......77
充電......14
消去（画像）......61
情報表示......21,56
初期化......76,81
シーンボタン......22,31
シングル表示......57
ズームボタン......20
スタンバイLED......12
ストロボ撮影......29
ストロボボタン......20
スポーツモード......31
スポットAF......39
スライドショー......66
静止画（音声再生）......54

索　引

静止画（再生）..54
静止画（撮影）..24
設定リセット...79,101
セットアップ..75
セルフタイマーLED...12
セルフタイマー撮影.................................34,46
全押し...19
全画像消去..61
全画像リサイズ...63
選択色変更..77
選択レバー..23
操作音...77
測光モード..39

た行

長時間露光..39
デジタルプリント...3
デバイス...96
テレビで画像を見る...84
電子ズーム...................................20,39,50
動画（再生）...72
動画（撮影）...43
ドライバソフト...96
トリミング..62

は行

パソコン...85
バッテリーパック...14
パララックス...23
半押し...19
ハンドストラップ...5
日付・時刻の設定...16
日付の写し込み..17,76
ビデオケーブル...84
ビデオ出力...78,84
評価測光...39
標準モード...31,45
ファイル...79
フェード（エフェクト）.....................................67
フォーカス...39,50
フォーカスロック...28
フォーマット...76,81
フォルダ...79
プリンタ...68
プリント設定／解除...68
プリント取扱店...68
フレーム／秒...47
プログラム..38
プロテクト..60
ホワイトバランス......................................37,49

ま行

マクロモード...32,45
マニュアルフォーカス.............................39,42
マルチ表示..57
マルチメディアカード.................................表紙
メッセージとその対策.....................................100
メニューボタン...34
メモリーカード...15
モードダイヤル...20
モードロック...77,101

や行

夜景モード..31
夜景ポートレートモード...................................31

ら行

ライトプロテクト...15
リサイズ...62
レックレビュー...78
連続撮影...26
連番リセット...79
録音...58
露出アンダー...36
露出オーバー...36
露出補正...36,48

わ行

ワイドAF...39
ワイプ（エフェクト）...67